

沖縄県立博物館年報

No. 26

聖諭

孝順父母 尊敬長上
和睦鄉里 教訓子孫
各安生理 毋作非爲

順治九年

世祖章皇帝頒行六諭于八旗直隸各省十六年令
五城各設公所講解曉諭以寬教化直省府州
縣亦皆舉行鄉約各地方官於每月朔望日會
聚官民人等在公所宣講為例

雍正庚戌之秋協理隆熱龍金大夫程順明謹書

1993

沖縄県立博物館

序

平成4年度は、復帰20周年という大きな節目を迎え、首里城の復元とともに首里城公園が開園され、県民が沖縄の歴史・文化を再認識する、本県にとって記念すべき重要な年がありました。

本県では、各種の復帰20周年記念事業が催されました。本館においても、例年ない数多くの企画展、特別展などの事業を実施しました。

5月に、前年度に寄贈・購入・収集しました資料を公開する恒例の「新収蔵品展」を開催しました。寄贈資料の中には、名護市在住の仲嶺俊子氏からの11,282点に及ぶ貝類のコレクションをはじめ、神奈川県在住の浜元寛得氏からは謝花雲石の書479点など大型の貴重資料があり、これらについては一部を紹介しました。

このような大型の寄贈をうけて、8月に仲嶺俊子貝類コレクションを展示紹介した特別展「沖縄の貝類～海からの贈りもの～」、2月に企画展「謝花雲石展」を各々開催し、大きな関心を集めました。

特別展としては6月に「古代メキシコ至宝展」を開催しました。重厚な美を表現した石彫など観覧者の目を釘付けにしました。

平成4年度は復帰20周年記念の年にあたり、10月にその記念特別展として「琉球王国～大交易時代とグスク～」を開催しました。全国各地に散在する資料を一堂に展覧し、普段は目に触れるこのない琉球王国関係の資料に好評を博しました。とくに大きな展覧会となったのが1月に催された特別展「尚家継承琉球王朝文化遺産展」でした。尚裕氏の御厚意により実現した本展覧会は、約9万人近くの観覧者をむかえるという県民の関心の高さを示し、尚家が保管してきた遺産のすばらしさに感嘆の声が聞かれました。

一方、展覧会のほかには次のような事業をおこないました。例年特に力を入れて取り組んでいます移動博物館は16回目をかぞえ、竹富町の波照間島で開催しました。また文化講座は第212回から223回まで開講しました。また、博物館学習をさらに充実させるため、小中高の先生の協力を得てワークシート作成委員会を設置しました。沖縄県立博物館新館建設委員会は県外先進博物館の視察をおこない、平成5年度の報告に向けて検討をすすめました。4月から10月にかけて当館敷地周辺の石牆整備事業として発掘調査及び石牆の整備工事がおこなわれ、前面及び東側の石垣が完成いたしました。

以上が平成4年度の博物館活動の概要です。なお、平成5年度以降も特別展や企画展、生涯学習時代のニーズに対応した文化講座などの活動に力を入れ、さらに充実させていきたいと思いますので、一層のご助言、ご協力を願っています。

平成5年（1993）7月

沖縄県立博物館館長 宜保 榮治郎

目 次

序	館長 宜保 榮治郎
I 概 要		
1 沿 革	5
2 施設・設備	7
3 予 算	9
4 組 織	10
II 入館者数		
1 入館者数	12
2 県内外児童生徒学生団体見学者	15
III 展示活動		
1 常設展	17
2 特別展	20
3 企画展	32
4 移動博物館	36
IV 教育普及活動		
1 活動の概要	41
2 教育普及活動	41
3 博物館文化講座	43
4 夏休み「歩く、見る、作る」教室	45
V 調査研究等の活動		
1 調査研究	47
2 著作論文	49
3 講演等	50
4 国外学芸員研修報告（米国）	56
VI 収蔵資料		
1 収蔵資料現在高	59
2 平成4年度（1992）新収蔵資料	59
3 平成4年度（1992）新収蔵資料目録	60
4 所蔵国県指定文化財	62
VII 刊行物	63
VIII その他の活動		
1 資料貸出	64
2 煙蒸処理	65
3 沖縄県立博物館協議会	65
4 沖縄県博物館協会	67
5 沖縄県立博物館友の会	68
6 博物館実習	69
7 沖縄県立博物館石牆整備工事	70
8 石牆整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査	70
IX 新館建設事業	71
X 日誌抄	72
XI 関係法規抄録	74

※ 表紙写真：程順則書「聖諭」

I 概 要

1 沿革

〔前史〕昭和11年（1936）沖縄県教育会付設として旧首里城北殿を利用して「沖縄郷土博物館」が創設されたが、同館は昭和20年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和20年8月米国海軍軍政府は残欠文化財を収集し石川市字東恩納に「沖縄陳列館」を設立した。いっぽう、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、同21年3月頃首里に「沖縄郷土博物館」が設立された。

〔創設〕昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称して新発足。これが当館の創立に当たる。

〔発展〕昭和28年（1953）東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年（1955）には「琉球政府立博物館」と改称。また、同41年（1966）には現敷地に新館を建設して移転する。同47年（1972）の日本復帰にともない名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年（1973）、2階を増築し展示スペースを拡大して現在に至る。

— [主な事項] —

- | | |
|-------------|---|
| 昭和21年（1946） | 4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し沖縄民政府の所管とする。 |
| 昭和22年（1947） | 12月、前年3月に首里汀良町に設立された沖縄郷土博物館も民政府に移管され、「沖縄民政府立首里博物館」と改称される。 |
| 昭和28年（1953） | 3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。この年5月、首里博物館は当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館を落成。 |
| 昭和30年（1955） | 9月、「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」と改称する。 |
| 昭和40年（1965） | この年、大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿、現敷地）を購入する。 |
| 昭和41年（1966） | 10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し移転。11月に開館。 |
| 昭和47年（1972） | 2月、サントリー美術館との共催で「50年前の沖縄」写真展を開催。5月、日本復帰にともない「沖縄県立博物館」と改称。 |
| 昭和48年（1973） | 2月、国庫補助により2階を増築し、展示室を3室増やす。 |
| 昭和51年（1976） | 4月、創立30周年記念式典を行う。 |
| 昭和55年（1980） | 1月、特別展「日本の美－救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」を開催。2月、移動博物館を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後、毎年離島市町村で実施する。11月、特別展「失われた生物たち－大恐竜展」開催。 |
| 昭和56年（1981） | 3月30日付で博物館法に基づき登録される。10月、特別展「沖縄の美－日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」を開催する。 |
| 昭和57年（1982） | 5月、新たに常設展として自然部門を設ける。10月、特別展「熊本県・沖縄交流展－熊本の歴史と文化」を開催する。 |
| 昭和58年（1983） | 11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展 沖縄の美－風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催する。 |
| 昭和60年（1985） | 11月、特別展「グスク－グスクが語る古代琉球の歴史とロマン」を開催する。 |

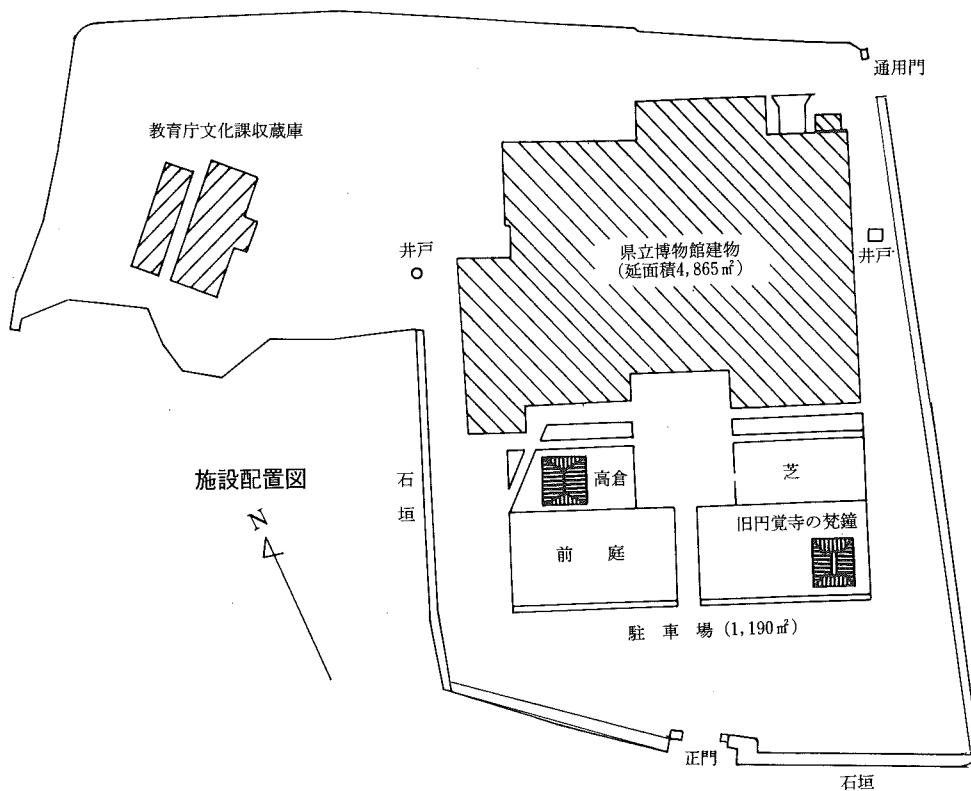
- 昭和61年（1986） 2月、特別展「美術工芸の美を求めて－大嶺薰コレクション」を開催する。
- 昭和62年（1987） 10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画－物故作家」開催。12月、企画展「田名家所蔵品展－ある首里士族の400年」を開催する。12月、企画展「現代沖縄の陶芸－天野鉄夫コレクション」を開催する。
- 昭和63年（1988） 8月、特別展「ヤンバルの自然」を開催する。11月、特別展「三線名器100挺展」を開催する。
- 平成元年（1989） 11月、特別展「インドネシアの更紗展」を開催する。
- 平成2年（1990） 1月、特別展「大アンデス文明展」を開催する。
- 平成3年（1991） 10月、特別展「アジアの祭りと芸能」を開催する。
- 平成4年（1992） 6月、特別展「古代メキシコ至宝展」を開催する。
8月、特別展「沖縄の貝類展」を開催する。
10月、特別展「琉球王国展」を開催する。
- 平成5年（1993） 1月、特別展「尚家継承琉球王朝文化遺産展」を開催する。

歴代館長

〔東恩納博物館〕	〔首里博物館〕
大嶺 薫（昭和21・4～28・3）	豊平 良顯（昭和22・12～23・3） 原田 貞吉（昭和23・8～28・3）

原田 貞吉（昭和28・3～30・5）
 山里 永吉（昭和30・8～33・8）〔琉球政府立博物館〕
 金城増太郎（昭和33・9～36・12）
 大城 知善（昭和37・2～44・11）
 外間 正幸（昭和44・12～56・3）〔沖縄県立博物館〕
 大城徳治郎（昭和56・4～58・3）
 大城 立裕（昭和58・4～61・3）
 大城 宗清（昭和61・4～平4・3）
 宜保榮治郎（平成4・4～）

2 施設・設備



施設規模

●敷地面積	11,267m ²
●建物のべ面積	4,865m ²
1階及び講堂部分		2,893
2階		1,571
地階		401
●展示面積	1,590m ²
1階		632
2階		958
●ロビー面積	256m ²
●収蔵庫面積	677m ²
●駐車場面積	1,190m ²
●庭園面積	1,612m ²
●講堂	632m ²

客席数630席 (2階240)

●空調機能力

ヒートポンプ式チーリングユニット
125,000kcal/h × 2機
エアハンドリングユニット 7機
パッケージ型エアコン
56,000kcal/h × 1機
28,000kcal/h × 1機
20,000kcal/h × 2機
8,400kcal/h × 1機

●变電室

電灯	1Φ 3W 30KVA × 1機
電灯・動力	3Φ 4W 100KVA × 1機
動力	3Φ 3W 250KVA × 1機

●契約電力..... 235kw

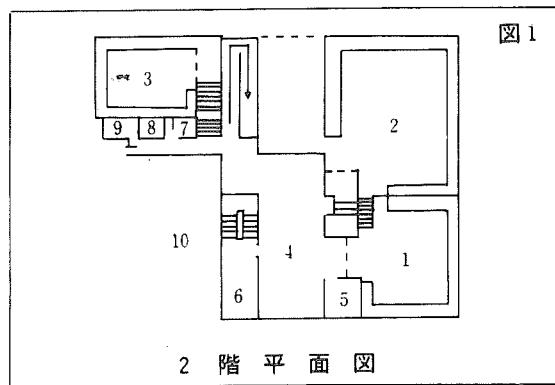


図1

2階平面図

<2階>

番号

室名

1	美術工芸展示室	265m ²
2	民俗展示室	436
3	漆器収蔵室	170
4	企画展示室	257
5	空調室	29
6	ホール控室	59
7	化粧室(女)	6
8	化粧室(男)	11
9	空調室	12
10	ホール中2階	61
11	貝類	
12	陶器	

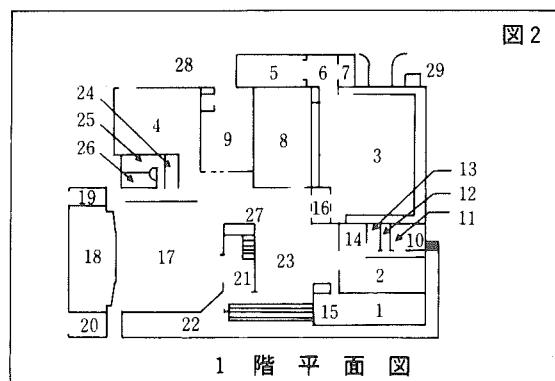


図2

1階平面図

<1階>

番号

室名

1	事務室	115m ²
2	会議室	96
3	歴史展示室	462
4	自然史展示室	170
5	収蔵庫	120
6	荷解場	32
7	陶磁器収蔵庫	11
8	中庭	152
9	厨子甕収蔵庫	91
10	宿直室	11
11	湯沸室	8
12	化粧室(女)	7
13	化粧室(男)	9
14	図書室	28
15	館長室兼応接室	28
16	案内コーナー	18
17	講堂(客室)	428
18	ステージ	116
19	控室	19
20	控室	32
21	講堂出入口	37
22	守衛室	14
23	ロビー	256
24	倉庫	14
25	化粧室(女)	21
26	化粧室(男)	17
27	友の会	10
28	空調室	11
29	ポンプ室	5

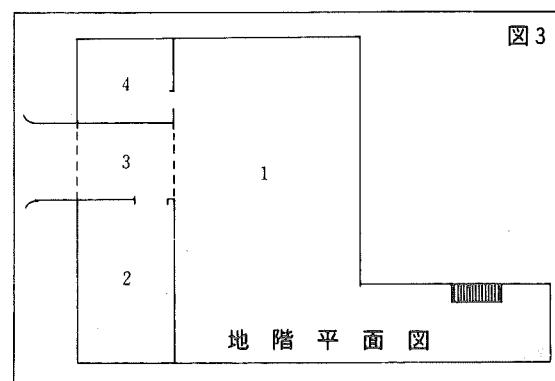


図3

地階平面図

<地階>

番号

室名

1	収蔵庫	285m ²
2	冷房機室	58
3	荷解場	28
4	変電室	30

3 予 算

平成4年度博物館費（決算）

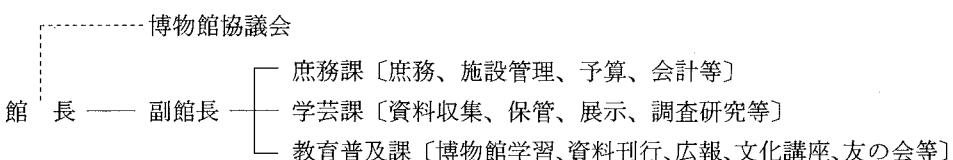
	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
報酬	139,400	0	139,400
賃金	6,376,960	3,264,000	9,640,960
報償費	139,000	1,435,690	1,574,690
旅費	7,870,974	8,554,971	16,425,945
(普通旅費)	2,174,084	5,847,783	8,021,867
需用費	21,434,372	28,831,449	50,265,821
消耗品費	861,000	4,417,536	5,278,536
燃料費	53,000	0	53,000
食糧費	200,558	2,247,467	2,448,025
印刷製本費	2,872,814	19,912,806	22,785,620
光熱水費	15,328,000	0	15,328,000
修繕費	2,119,000	2,253,640	4,372,640
役務費	942,586	31,415,764	32,358,350
通信運搬費	882,695	23,405,464	24,288,159
手数料	21,341	0	21,341
筆耕翻訳料	20,000	10,300	30,300
広告料	0	8,000,000	8,000,000
自動車損害保険料	18,550	0	18,550
委託料	33,385,424	33,716,868	67,102,292
使用料及び賃借料	1,755,267	21,266,784	23,022,051
工事請負費	147,381,022	0	147,381,022
備品購入費	7,704,600	6,345,179	14,049,779
負担金補助及交付金	65,000	30,900,000	30,965,000
公課費	18,900	0	18,900
合計	227,213,505	165,730,705	392,944,210

平成4年度歳入状況（決算）

	常設展	特別展	合計
博物館使用料	5,777,000	57,860,000	63,637,000
土地使用料	87,000	0	87,000
建物使用料	26,000	0	26,000
雜入	10,163,000	0	10,163,000
合計	16,053,000	57,860,000	73,913,000

4 組織

(1) 機構



(2) 職員構成

平成5年4月1日現在

職名	氏名	担当業務
館長	宜保 榮治郎	博物館業務の総理に関する事。
副館長 〔庶務課〕	濱比嘉 勝	館長補佐、庶務課、学芸課、教育普及課との調整に関する事。
庶務課長	山里 直	庶務課の統括、庶務、施設管理、予算、事業に関する事。
主査	上江洲 キク	予算・決算、会計事務に関する事。
副主査	宜保 光子	歳入、会計事務、庶務、人事、福利厚生に関する事。
技師	岸本 実	施設整備の保守管理及び新館建設事業に関する事。
〔学芸課〕		
学芸課長	大城 将保	学芸業務の統括、歴史、新館建設事業及び沖博協に関する事。
指導主事	久貝 勝盛	自然史（植物・動物）、年報及び紀要に関する事。
指導主事	瀬名波 任	自然史（地質）、総合調査及び沖博協に関する事。
指導主事	嵩原 建二	自然史（植物・動物）、及び図書資料に関する事。
学芸員	萩尾 俊章	歴史、資料保存及び新館建設事業に関する事。
学芸員	與那嶺 一子	美術工芸、資料受入、整理分類、資料貸出及写真資料に関する事。
〔教育普及課〕		
教育普及課長	當眞嗣 一	教育普及業務の統括、友の会の育成等及び考古資料に関する事。
指導主事	前田 真之	教育普及、博物館學習、団体見学、ボランティア活動及び新館建設事業に関する事。
指導主事	瑞慶山 昇	教育普及、移動博物館、教育普及機器及び美術工芸に関する事。
専門員	金城 透	教育普及、文化講座、視聴覚資料、広報及び民俗に関する事。

非常勤職員 (委託業務)	氏名	担当業務
教育普及補助員	上原 敏子	教育普及および展示解説に関する事。
教育普及補助員	金城 武子	教育普及、展示解説及び寄贈図書類受入に関する事。
監視員	西平 節子	受付及び展示場監視に関する事。
監視員	東 美智子	受付及び展示場監視に関する事。
監視員	金城 民子	受付及び展示場監視に関する事。
監視員	小橋川 敏子	展示場監視に関する事。
監視員	喜屋武 トシ子	展示場監視に関する事。
監視員	比嘉 春子	展示場監視に関する事。
清掃員	渡慶次 紫宝	清掃に関する事。

博物館友の会	氏 名	担 当 業 務
博物館友の会	池宮城 啓子	博物館友の会の庶務会計

(3) 人事異動

平成5年4月1日

職 名	氏 名	摘要	要
<転出>			
副 館 長	西 平 守 勝	糸満青年の家所長	
指導主事	上 門 清 春	教育センター研究主事	
専 門 員	大 城 學	文化課主任専門員	
<転入>			
副 館 長	濱比嘉 勝	生涯学習振興課課長補佐	
指導主事(元)	久 貝 勝 盛	小禄高等学校教諭	
指導主事	瀬名波 任	浦添高等学校教諭	
専 門 員	金 城 透	糸満高等学校教諭	

II 入館者数

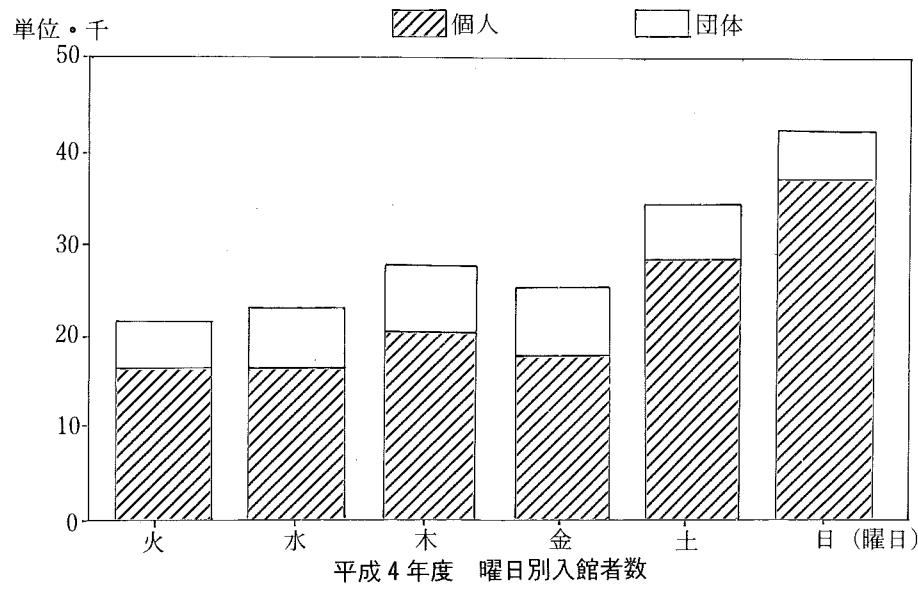
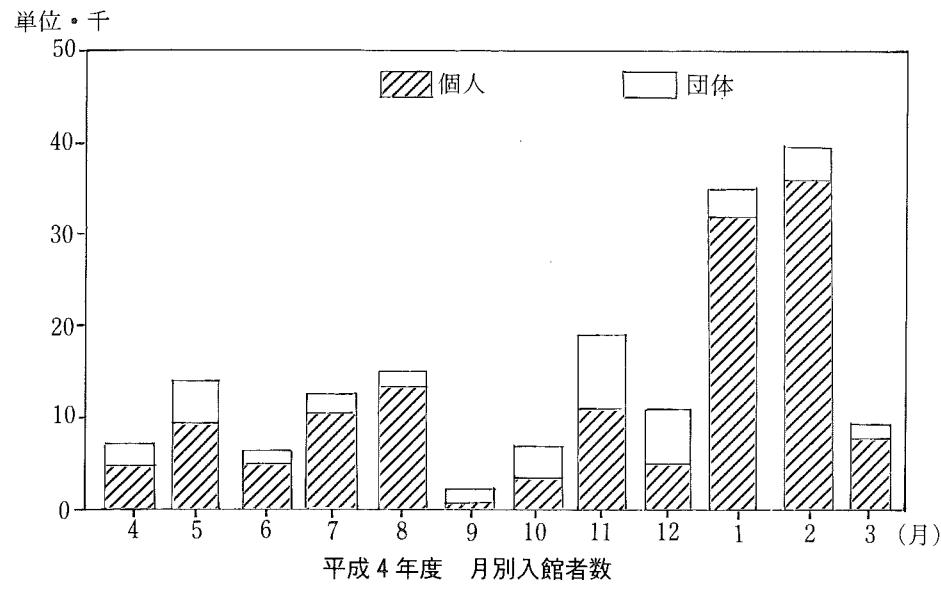
1 入館者数 (平成4年4月1日～平成5年3月31日) 特別展等を含む

月別入館者数

		個 人 入 館 者 数				団 体 入 館 者 数				入 館 者 総 数						
		大 人	高 大 生	小 中 生	合 計	大 人	高 大 生	小 中 生	合 計	大 人	高 大 生	小 中 生	合 計	合 計	開 館 日 数	日 平 均 入 館 者 数
		有料 (無料)	有料 (無料)	有料 (無料)	合 計	有料 (無料)	有料 (無料)	有料 (無料)	合 計	有料 (無料)	有料 (無料)	有料 (無料)	合 計	有料 (無料)	有料 (無料)	
4年	4月	4,306 (138)	245 ()	499 ()	5,050 (138)	667 (97)	1,061 ()	995 ()	2,723 (97)	4,973 (25)	1,306 ()	1,494 ()	7,773 (25)	25	320	
5月	4,286 (156)	808 ()	293 ()	5,387 (156)	1,581 (453)	922 (0)	1,867 (11)	4,370 (464)	5,867 (699)	1,730 (0)	2,160 (11)	9,757 (620)	25	415		
6月	4,040 (202)	380 (3)	499 ()	4,919 (205)	755 (99)	285 ()	698 (207)	1,738 (306)	4,795 (301)	665 (3)	1,197 (207)	6,657 (511)	20	358		
7月	7,623 (1,024)	1,040 (28)	1,905 (156)	10,568 (1,208)	884 (84)	901 (9)	399 (79)	2,184 (172)	8,507 (1,108)	1,941 (37)	2,304 (235)	12,752 (1,380)	23	614		
8月	7,798 (533)	1,059 ()	4,843 (286)	13,700 (819)	403 (135)	925 (319)	391 (387)	1,719 (831)	8,201 (668)	1,984 (309)	5,234 (673)	15,419 (1,650)	25	682		
9月	1,836 (85)	162 (2)	93 (200)	2,091 (287)	373 (136)	579 ()	(9)	952 (145)	2,209 (221)	741 (2)	93 (209)	3,043 (432)	17	204		
10月	2,923 (292)	151 (0)	66 (0)	3,140 (292)	506 (302)	2,084 (7)	1,370 (1,320)	3,960 (1,629)	3,429 (594)	2,235 (7)	1,436 (1,320)	7,100 (1,921)	20	451		
11月	9,536 (617)	611 ()	1,073 (16)	11,220 (633)	2,170 (475)	765 (9)	4,871 (221)	7,806 (705)	11,706 (1,032)	1,376 (9)	5,944 (237)	19,026 (1,358)	24	848		
12月	4,319 (424)	347 ()	5,079 (424)	1,396 (211)	1,479 (52)	2,187 (25)	5,062 (288)	5,715 (635)	1,826 (52)	2,600 (25)	10,141 (712)	18	602			
5年	1月	26,826 (1,536)	1,343 ()	3,751 ()	31,920 (1,536)	2,210 (246)	624 (1,264)	235 (1,006)	3,069 (2,516)	29,036 (1,732)	1,967 (1,264)	3,986 (1,006)	34,989 (4,052)	24	1626	
	2月	28,978 (1,772)	1,598 ()	5,170 (1)	35,746 (1,773)	2,509 (466)	804 (1,640)	346 (5,262)	3,659 (7,368)	31,487 (2,238)	2,402 (1,640)	5,516 (5,263)	39,405 (9,141)	18	2697	
	3月	6,733 (359)	912 (2)	562 (70)	8,207 (431)	708 (145)	502 (36)	179 (1,622)	1,389 (1,803)	7,441 (504)	1,414 (38)	741 (1,692)	9,506 (2,234)	25	473	
合 计	109,204 (7,138)	8,656 (35)	19,167 (729)	137,027 (7,902)	14,162 (2,849)	10,931 (3,326)	13,538 (10,149)	38,631 (16,324)	123,366 (9,987)	19,587 (3,361)	32,705 (10,376)	175,658 (24,226)	総日数			
総 計	116,342	8,691	19,896	144,929	17,011	14,257	23,687	54,955	133,333	22,948	43,583	199,884	264	757		

曜日別入館者数

		個 人 入 館 者 数				団 体 入 館 者 数				入 館 者 総 数						
		大 人	高 大 生	小 中 生	合 計	大 人	高 大 生	小 中 生	合 計	大 人	高 大 生	小 中 生	合 計	合 計	開 館 日 数	日 平 均 入 館 者 数
		有料 (無料)	有料 (無料)	有料 (無料)	合 計	有料 (無料)	有料 (無料)	有料 (無料)	合 計	有料 (無料)	有料 (無料)	有料 (無料)	合 計	有料 (無料)	有料 (無料)	
月	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
火	13,508 (1,159)	1,039 (0)	1,760 (66)	16,307 (1,223)	2,437 (386)	1,155 (466)	1,663 (2,647)	5,255 (3,499)	15,945 (1,545)	2,194 (466)	3,423 (2,713)	21,562 (4,724)	41	641		
水	13,829 (843)	1,185 (0)	1,245 (97)	16,259 (940)	2,173 (604)	2,452 (1,242)	2,289 (2,083)	6,914 (3,929)	16,002 (1,447)	3,637 (1,242)	3,534 (2,180)	23,173 (4,869)	44	637		
木	16,467 (1,071)	1,510 (7)	2,831 (88)	20,798 (1,166)	2,101 (538)	2,225 (694)	2,656 (1,690)	6,982 (2,922)	18,568 (1,609)	3,725 (701)	5,487 (1,778)	27,780 (4,088)	44	724		
金	15,116 (872)	1,309 (0)	1,447 (41)	17,872 (913)	1,914 (782)	1,925 (470)	3,858 (2,086)	7,668 (3,338)	16,981 (1,654)	3,234 (470)	5,325 (2,127)	25,540 (4,251)	44	677		
土	22,038 (1,552)	1,628 (22)	4,582 (359)	28,248 (1,933)	2,039 (298)	2,417 (418)	2,123 (1,629)	6,579 (2,345)	24,077 (1,850)	4,045 (440)	6,705 (1,988)	34,827 (4,278)	45	889		
日	28,246 (1,641)	1,995 (6)	7,302 (78)	37,543 (1,725)	3,527 (241)	737 (36)	949 (14)	5,233 (291)	31,773 (1,882)	2,752 (42)	8,251 (92)	42,776 (2,016)	46	973		
合 計	109,204 (7,138)	8,656 (35)	19,167 (729)	137,027 (7,902)	14,191 (2,849)	10,931 (3,326)	13,538 (10,149)	38,631 (16,324)	123,346 (9,987)	19,587 (3,361)	32,725 (10,378)	175,658 (24,226)	264	757		



団体入館者数（有料）

	県 内								県 外								国 外								合 計		
	大 人		高大生		小中生		小 計		大 人		高大生		小中生		小 計		大 人		高大生		小中生		小 計				
年 月	團 體 數	人 數																									
平成4年 4月	2	88	0	0	6	743	8	831	12	472	4	1,061	3	252	19	1,785	3	107	0	0	0	0	3	107	30	2,723	
5月	22	826	1	52	12	886	35	1,764	14	607	6	870	14	981	34	2,458	4	148	0	0	0	0	4	148	73	4,370	
6月	10	386	2	111	13	655	25	1,152	11	297	3	174	1	39	15	510	2	72	0	0	1	4	3	76	43	1,738	
7月	15	568	1	20	8	357	24	945	9	316	5	846	1	42	15	1,204	0	0	1	35	0	0	1	35	40	2,184	
8月	8	204	10	608	9	304	27	1,116	7	168	8	317	3	72	18	557	2	31	0	0	1	15	3	46	48	1,719	
9月	3	90	1	99	0	0	4	189	5	283	4	480	0	0	9	763	0	0	0	0	0	0	0	0	13	952	
10月	6	338	0	0	12	1,218	18	1,556	4	111	10	2,084	2	152	16	2,347	2	57	0	0	0	0	2	57	36	3,960	
11月	31	1,353	6	283	47	4,633	84	6,269	16	744	4	459	1	238	21	1,441	3	73	2	23	0	0	5	96	110	7,806	
12月	40	1,255	2	75	17	1,684	59	3,014	5	141	10	1,404	2	503	17	2,048	0	0	0	0	0	0	0	0	76	5,062	
平成5年 1月	51	1,624	3	129	1	226	55	1,979	13	546	2	495	0	6	15	1,047	2	40	0	0	0	3	2	43	72	3,069	
2月	63	2,213	1	14	10	344	74	2,571	11	278	6	790	0	0	17	1,068	1	18	0	0	0	2	1	20	92	3,659	
3月	7	221	0	0	1	5	8	226	16	487	6	502	3	174	25	1,163	0	0	0	0	0	0	0	0	33	1,389	
合 計	258	9,166	27	1,391	136	11,055	421	21,612	123	4,450	68	9,482	30	2,459	221	16,391	19	546	3	58	2	24	24	628	666	38,631	

移動博物館入館者数（276）

2. 県内外児童生徒学生団体見学者

(小学校) 11,982名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名		
4	17	識名小学校	10	6	佐敷小学校	97名	11	20	東小学校	35名
	18	城北小学校	148名	16	登野城小学校	191名	20	奥間小学校	29名	
	18	天妃小学校	141名	27	与那原小学校	120名	20	金城小学校	151名	
	18	松島小学校	134名	27	米須小学校	43名	20	稻田小学校	30名	
	25	大道小学校	38名	28	本部小学校	159名	25	瀬喜田小学校	21名	
	25	前島小学校	91名	28	具志川小学校	71名	26	高原小学校	218名	
5	1	中城小学校	79名	28	上本部小学校	44名	26	美原小学校	79名	
	1	翔南小学校	116名	29	松田小学校	25名	27	西原南小学校	68名	
	1	南風原小学校	104名	29	与那原東小学校	126名	27	北中城小学校	155名	
	8	神森小学校	117名	29	薺芸小学校	32名	12	エモリアル、ハートスクール	122名	
	12	伊仙小学校（鹿児島）	40名	29	真壁小学校	49名	11	当山小学校	156名	
	13	徳之島合同修学旅行	222名	30	牧港小学校	154名	18	Bechtel Elementary School	97名	
	19	琉大付属小学校	114名	30	宮森小学校	131名	14	城西小学校～2/10	268名	
	19	和泊小学校（鹿児島）	145名	30	与那城小学校	153名	20	松川小学校～3/6	483名	
	21	下地小学校	44名	30	西原東小学校	131名	23	白川小学校	38名	
	23	西城小学校	45名	30	城西小学校	166名	26	城東小学校～2/25	475名	
6	27	馬根小学校（鹿児島）	31名	29	石嶺小学校	140名	26	北玉小学校	80名	
	28	久米島小学校	47名	11	真夏屋小学校	25名	2	嘉陽小学校	16名	
	30	大道小学校	77名	4	知念小学校	88名	2	安波小学校	8名	
	30	大神小学校	41名	5	名護小学校	108名	9	沖縄クリスチヤンスクール	21名	
	30	久松小学校	36名	5	美里小学校	152名	9	ステアリィハイツスクール	174名	
	2	鏡原、宮平小学校（平良市）	35名	5	屋我地小学校	20名	9	真嘉比小学校～3/10	86名	
	4	多良間小学校	27名	5	安ゲ名小学校	106名	9	金武小学校～2/12	130名	
	5	津波小学校	75名	5	伊平屋小学校	30名	9	古蔵小学校	196名	
	5	平良東小学校	119名	6	今帰仁小学校	75名	9	知念小学校	83名	
	6	垣花小学校	93名	6	北美小学校	176名	9	ズケラン米人小学校	45名	
7	11	南小学校	98名	6	北谷第二小学校	82名	10	天妃小学校～3/5	270名	
	20	松川小学校	153名	6	高嶺小学校	79名	10	嘉手納小学校	20名	
	21	平敷屋小学校	18名	6	安田小学校	38名	10	大里北小学校～2/12	109名	
	24	島袋小学校	41名	6	喜屋武小学校	42名	10	浦添小学校	100名	
	24	面繩小学校	39名	7	宜野座小学校	41名	11	与儀小学校～2/23	220名	
	24	沖縄三育小学校～7/3	141名	10	安慶田小学校	114名	13	西崎小学校～3/4	491名	
	1	美崎小学校	40名	11	古堅小学校	120名	24	西原小学校	125名	
	3	与那国小学校	23名	11	清水小学校	45名	24	識名小学校	203名	
	11	前田小学校	113名	13	屋部小学校	57名	26	宇栄原小学校	135名	
	9	粟国小学校	9名	17	兼原小学校	144名	26	城南小学校	114名	
10	6	新川小学校	184名	18	大里北小学校	96名	26	高良小学校	192名	
	7	川平小学校	15名	18	仲泊小学校	27名	27	上田小学校	158名	
	8	田場小学校	132名	18	仲里小学校	40名	3	城北小学校	152名	
	8	東江小学校	128名	19	大宮小学校	164名	4	久茂地小学校	73名	
	13	船越小学校	55名	19	泊小学校	185名	5	松島小学校	156名	
	14	北大島小学校	10名	20	瀬底小学校	27名	5	坂田小学校	133名	
	15	伊江小学校	48名	20	大北小学校	98名	6	神原小学校	131名	
	15	恩納小学校	45名	20	北谷小学校	81名				
	15	武蔵野小学校（東京）	90名	20	北玉小学校	88名				

(中学校) 7,549名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	
4	19	喜界町第一中学校（鹿児島）	77名	11	読谷中学校	282名	12	15 大津中学校（熊本）	283名
	23	豊津中学校（福岡）	136名	11	石田中学校	23名	16	古堅中学校	454名
	26	阿木名中学校（鹿児島）	28名	14	松城中学校	22名	1	26 石嶺中学校	478名
	9	赤木名中学校（鹿児島）	85名	14	興南中学校	368名	27	城北中学校～2/3	55名
	12	清和中学校（熊本）	55名	16	古堅中学校～12/16	540名	2	松島中学校～2/9	665名
	12	成城学園中学校（東京）11/19	75名	19	成城中学校	229名	4	安岡中学校～2/9	361名
5	14	坂本中学校（熊本）	71名	20	桑江中学校	174名	6	知念中学校	280名
	14	赤徳中学校（鹿児島）	35名	27	美東中学校	393名	6	首里中学校	403名
	14	東城中学校（鹿児島）	23名	12	1 北谷中学校	200名	10	南星中学校	5名
	17	金久中学校（鹿児島）	151名	2	伊波中学校	148名	10	具志頭中学校	314名
	24	早町中学校（鹿児島）	46名	2	東中学校	38名	10	湧川中学校	32名
	6	城北中学校	22名	9	北城中学校	193名	12	昭和薬科大学附属中学校	136名
10	8	白水中学校	62名	9	立命館中学校（京都）	220名	12	鏡原中学校	30名
	6	高江洲中学校	149名	10	レスタミドルスクール	50名	3	愛媛大学附属中学校	158名

(高等学校) 12,653名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
4	1	花園高校(京都)	446名	10	28	真備高校(岡山)	368名	1	20	豊見城高校	79名
	2	長野女子高校(長野)	311名		19	都立雪谷高校(東京)	345名		20	昭和薬科大附属高校~27	351名
	22	東亜学園高校(東京)	304名		21	明津学院高校(大阪)	595名		27	浦添高校~1/29	134名
5	7	金蘭会高校(大阪)	458名	11	3	菊地女子高校(熊本)	108名	2	29	大阪高校(大阪)	495名
	12	国立音楽大附属(東京)	155名		5	首里高校	87名		3	小川高校(東京)2/6	386名
	27	神奈川大学附属高校(神奈川)	198名		11	湖南女子高校(神奈川)	174名		4	普天間高校	45名
6	25	山川高校(鹿児島)	102名	18	北海道工業高校(北海道)	155名	2	5	球陽高校	340名	
	27	首里高校	23名		19	読谷高校	20名	9	大平高校	29名	
	30	名護高校	16名		21	浦添高校	31名	9	那覇高校~2/11	280名	
7	3	九州産業高校	591名	12	1	豊見城高校	38名	10	北部工業高校	129名	
	7	台中新民高校(台湾)	35名		9	精華女子高校(大阪)~12	298名		10	開邦高校	512名
	7	開邦高校	20名		9	西原高校	35名		10	都立小岩高校	70名
8	2	浦添高校~8/30	584名	11	11	帝塚山学院泉岡高校(大阪)	144名	12	辻土名高校	17名	
	4	多治見高校(岐阜)	26名		15	清風学園(大阪)	818名		26	保善高校	299名
	10	九州電気学園高校(福岡)	263名		19	同朋高校(愛知)	76名		3	大商大高校	405名
9	11	東海大学高輪台高校(東京)	143名	1	6	首里高校~2/10	532名	4	美里高校	36名	
	8	メリノール女子学院高校(三重)	165名		14	南部農林高校	190名		10	富山国際大学附属高校(富山)	26名
	9	聖学園高校(東京)	207名		14	石川高校	16名		14	同士社国際高等学校	20名
10	13	ノートルダム清心高校(広島)	200名	16	沖縄女子短大附属高校	220名	20	小禄高校	40名		
	27	精華女子高校(大阪)~12/9	463名		20						

(大学・専門学校) 1,157名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
5	26	勤医協看護学校	36名	7	16	情報産業専門学校	20名	11	12	琉球大学~11/29	113名
	28	琉球大学	50名		8	明治大学	28名		14	UNIVERSITY OF MARYLAND	21名
	29	広島県看護学校	23名		29	獨協大学	23名		29	沖縄大学	31名
6	4	筑波学園高等看護学院	31名	9	12	玉川大学	32名	12	2	阪南大学	28名
	6	国際ツーリズム専門学校	72名		19	県立沖縄看護学校	99名		5	山口大学	45名
	27	慈恵青戸看護学校	41名		19	九州福祉医療専門学校~10/3	78名		1	国際ツーリズム専門学校	83名
7	4	千代田学園	235名	11	6	福岡大学	22名	7	琉球大学・沖縄大学	46名	

(特殊学校・その他) 798名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
5	28	ピーターベン保育園	11名	8	25	しらゆり保育園	28名	1	12	ひかり保育園	15名
	4	当蔵保育所~7/23	82名		25	いした丘保育園	36名		13	浜川児童教育園	17名
	7	那覇養護学校	6名		25	みつわ保育園	11名		27	報恩幼稚園	23名
8	25	クリスチャン教育センター幼稚園	47名	11	26	=ミール保育園	33名	2	27	東幼稚園	13名
	11	与那覇保育園	47名		28	ほがらか保育園	19名		3	MOA沖縄保育園	21名
	18	ドリーム幼児学園	43名		10	はなぞの保育園	21名		9	県立盲学校	13名
18	長田学童保育所	12名	13	13	城西幼稚園	107名	11	鏡が丘養護学校	3名		
	19	たんぽぽ保育所	9名	27	沖縄ろう学校	9名	23	みぎわ保育園	10名		
	19	当蔵保育所	19名	16	西崎養護学校	9名	28	風の子共同保育園	14名		
20	愛知保育園	40名	3	16	沖縄盲学校	3名	3	こくら保育園	34名		
	21	光幼兒学園	34名	18	大平養護学校	9名	12				

III 展示活動

1 常設展

常設展は、「沖縄の自然・歴史・文化」をテーマに、歴史、自然史、美術工芸、民俗の4分野で構成されている。

まず前庭には、亜熱帯の樹木や草花に囲まれて、旧円覚寺鐘（重文）や高倉などの屋外展示がある。敷地は中城御殿（尚家別邸）の屋敷跡で、独特の工法で積まれた石垣は前方の龍潭や首里城の眺めと調和して王朝時代の姿をしのばせる歴史的景観をなしている。

ロビーにはいると、首里城正殿の模型を中心に、万国津梁の鐘（首里城正殿鐘・重文）や正殿大龍柱の頭部、王朝時代の扁額などによって「琉球王国」のイメージを象徴的に展示してある。

1階には、「歴史」展示室（第1室）と「自然史」展示室（第2室）がある。

第1室「歴史」は、旧石器時代から現代までの沖縄の歴史を通史的な流れにそって展示している。港川人に代表される旧石器時代、そして九州縄文文化の南下に刺激されて独自の展開をみせる沖縄貝塚時代の様子や、沖縄諸島とは起源を異にする宮古・八重山諸島の原始・古代の展示がみられる。12世紀にはいると、地方の支配者である按司が群雄割拠してグスク時代がはじまる。やがて15世紀初頭には沖縄は統一されて琉球王国が誕生する。琉球は大交易時代の国際交流によって王朝文化の花を咲かせるが、やがて薩摩の支配下にはいり幕藩体制にくみこまれていく。続いて幕末の開国の動き、琉球処分、明治・大正・昭和の世相、沖縄戦から戦後の米軍統治時代にいたるまで沖縄歴史のユニークな諸相が展開されている。

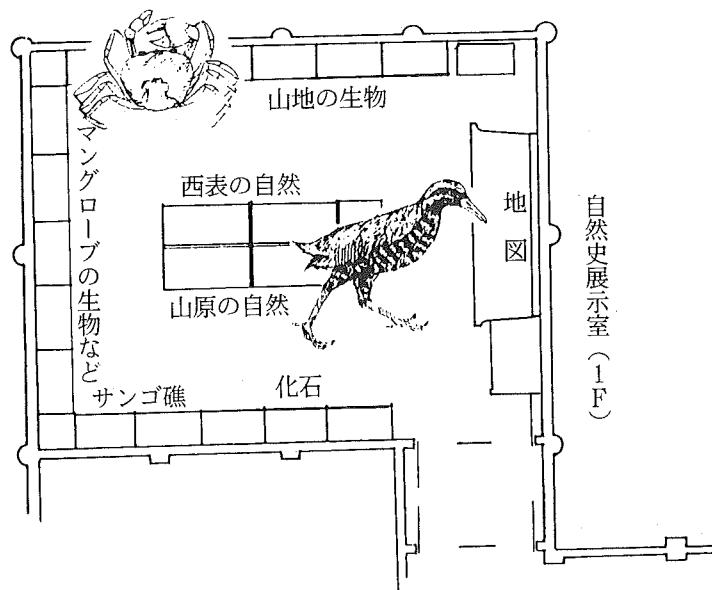
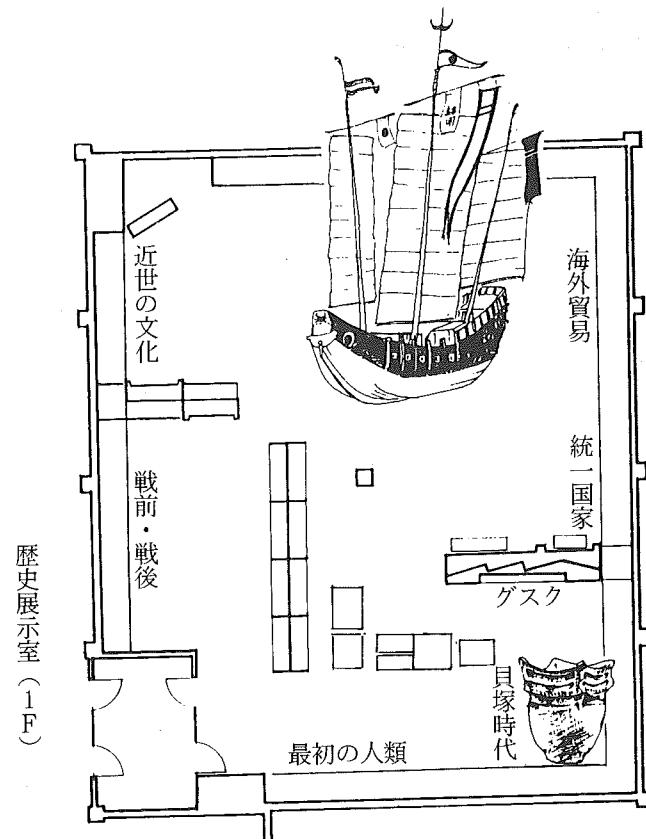
第2室「自然史」は、琉球列島の成立からはじまって亜熱帯地域にひろがる沖縄の自然について展示している。ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、イリオモテヤマネコ、ヤンバルテナガコガネといった、沖縄にしか生息しない動物をはじめ、「東洋のガラパゴス」と呼ばれるほどに多様で貴重な動植物を、それらが生息する環境ごとに整理して標本や写真で紹介している。とくに大自然の宝庫といわれるヤンバル（山原・沖縄本島北部）と西表島については特設コーナーをもうけて展示してある。

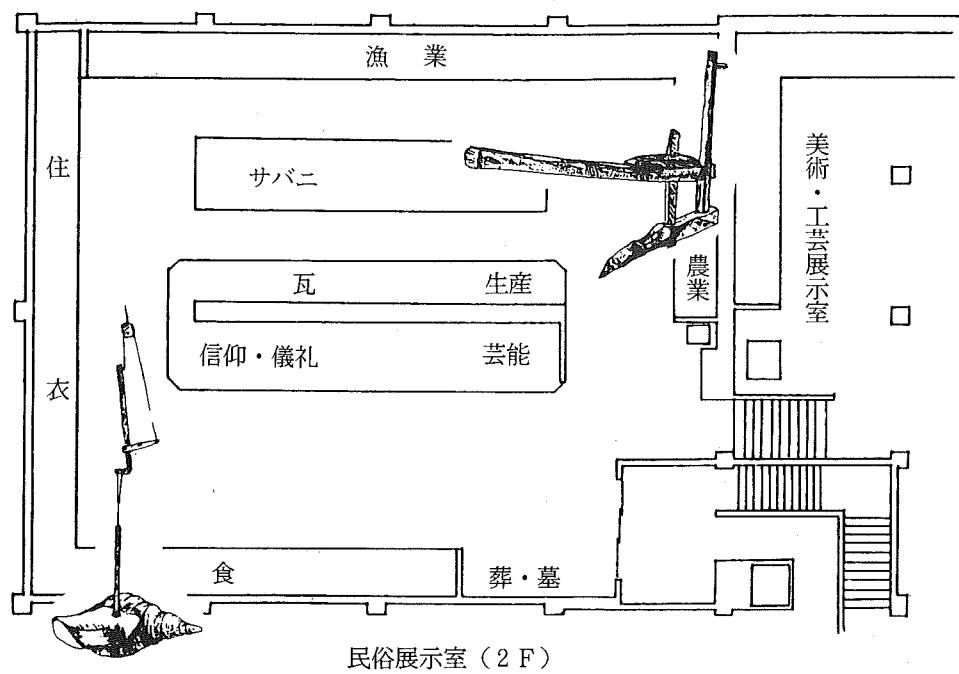
スロープ壁面の写真展示（鎌倉芳太郎撮影）に導かれて2階にのぼると、「美術工芸」展示室（第3室）と「民俗」展示室（第4室）がある。途中の2階ロビー（企画展示室）では企画展なども催されるが、ふだんは「大嶺薰コレクション」と「東南アジアの染織」などが展示している。

第3室「美術工芸」には、琉球王朝文化の輝きをしのばせる、絵画、書跡、染織、漆器、陶器、などが展示されている。中国の影響をうかがわせる王府時代の絵画や書跡、絢・びん型・花織などの独特な技術や意匠を表現した染織、螺鈿・沈金・堆錦などの高度な技法をみせる琉球漆器、そして壺屋の琉球陶器など、亜熱帯の風土と海外文化交流によって生み出された美術工芸品は、沖縄の個性的な芸術世界を表現している。

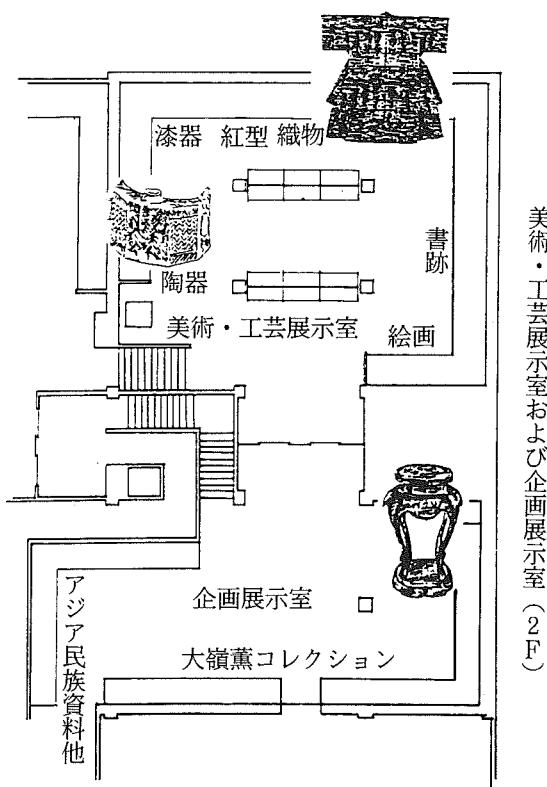
第4室「民俗」は、琉球列島の民俗資料を、農業・漁業・衣食住・信仰・芸能・葬墓制などのコーナーに整理分類して展示している。これらの生活用品を通して、昔の人びとが工夫して築いてきた沖縄の生活文化の特色を知ることができる。

なお、特別展または大規模な企画展の期間中は常設展の一部を撤去して特別展示室に用いる場合がある。





民俗展示室（2F）



2 特別展

(1) 「古代メキシコ至宝展」(担当: 瑞慶山昇)

会期: 平成4年6月20日(土)～7月26日(日)

会場: 1階ロビー、企画展示室、第3展示室

〔開催趣旨〕古代メキシコ文明の芸術作品を一堂に集めた特別展で、紀元前1200年のメキシコ文明の発祥から、16世紀のスペインの征服にいたるまでの各時代を象徴する、国宝級美術品124点を、メキシコ国立人類学博物館を中心に、メキシコ国内13の博物館から選び抜かれた作品である。

本展示会は、沖縄でははじめてのメキシコ展で、世界有数の高度な芸術作品を県民に紹介する絶好の機会であり、またメキシコと沖縄との文化交流・友好親善の発展に寄与することを目的として実施した。

〔開催形式〕沖縄県立博物館、琉球新報社、メキシコ国立文化芸術審議会、メキシコ国立人類学歴史研究所、毎日新聞社、オリベッティが主催し実施した。なお、後援に外務省・文化庁・メキシコ大使館、協力に日本航空。・(株)沖縄フジカラー・沖縄メキシコ協会、協賛に東京海上が参加した。

〔展示内容〕マヤ文化やアステカ文化に代表される、紀元前1200年から16世紀までの、古代メキシコに栄えた各文化の芸術品を5つの地域に区分し、各文化を代表する国宝級の作品で、石彫53点、土偶32点、土器30点、フレスコ壁画7点、漆喰仮面1点、ヒスイ仮面1点で構成された。1階ロビーにおいては、大型遺跡分布地図と各地域を代表する大型石彫を5点展示し、企画展示室では、中央高原文化、テオティワカン文化、トルテカ文化、メシカ文化、サボテカ文化を展示。第3展示室では、オルメカ文化、中央ペラカルス文化、トトナカ文化、西部地域文化、オアシス・アメリカ文化を展示した。また、スロープの壁面を使い3年間のメキシコ滞在経験を持つ、島袋哲、須美子御夫妻撮影の51点の写真パネルを展示し、現在のメキシコに関する風俗などを紹介する展示も行った。

〔関連催し物〕

- ①文化講座(第215回博物館文化講座。6月21日(土)午後2時半～4時半)、於:首里公民館。
特別講演「アメリカ大陸の古代文明～メキシコとペルー～」、講師:大貫良夫(東京大学教授)。
- ②民族舞踊とギター演奏(7月18日(土)午後3時～4時)博物館正面入口前広場。公演:メキシコ協会。

〔展示目録〕展示資料目録の詳細は、図録の巻末に掲載してある。

〔中央高原先古典期文化〕10点……土偶(人物、鴨、ジャガーラー)、土器(副葬杯)等

〔テオティワカン文化〕17点……土偶(人物)、土器(香炉、壺、杯)、石彫(人物、仮面レリーフ)
フレスコ壁画、土製仮面等

〔トルテカ文化〕7点……土偶(神)、石彫(人物、神)等

〔メシカ文化〕14点……土偶(守護神)、石彫(蛇、戦士、人物座像、人物立像、仮面、猿)等

〔サボテカ文化〕10点……土偶(人物)、土器(椀、骨壺、ジャガー、容器)、石製容器等

〔オルメカ文化〕6点……土偶(子ども)、土器(椀)、石彫(人物)等

〔中央ペラカルス文化〕11点……土偶(ジャガー、人物)、土器(人物)、石彫(ジャガー、フク

ロウ、頭像、パルマ）等

[トトナカ文化] 10点……土偶（子どもと女性）、土器（神官型）、石彫（老人頭像、男性シンボル、女神、神官）、フレスコ壁画等

[マヤ文化] 16点……土偶（貴族、戦士、神官）、土器（骨壺、容器）、石彫（レリーフ、柱、人物）、漆喰（仮面）、ヒスイ（仮面）等

[西部地域文化] 18点……土偶（人物、犬、鴨）、土器（人型壺、容器）、石彫（人物、仮面）等

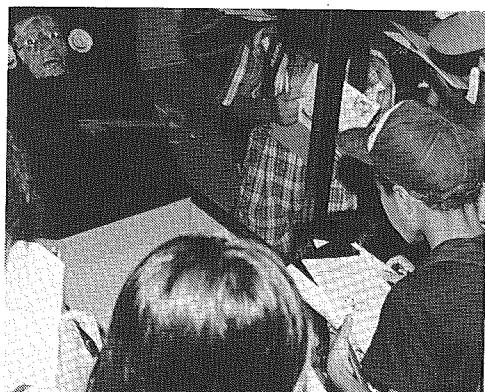
[オアシス・アメリカ文化] 5点……土器（人物型、動物型、幾何学容器）、石彫（人物）等



展示会場（1階ロビー）

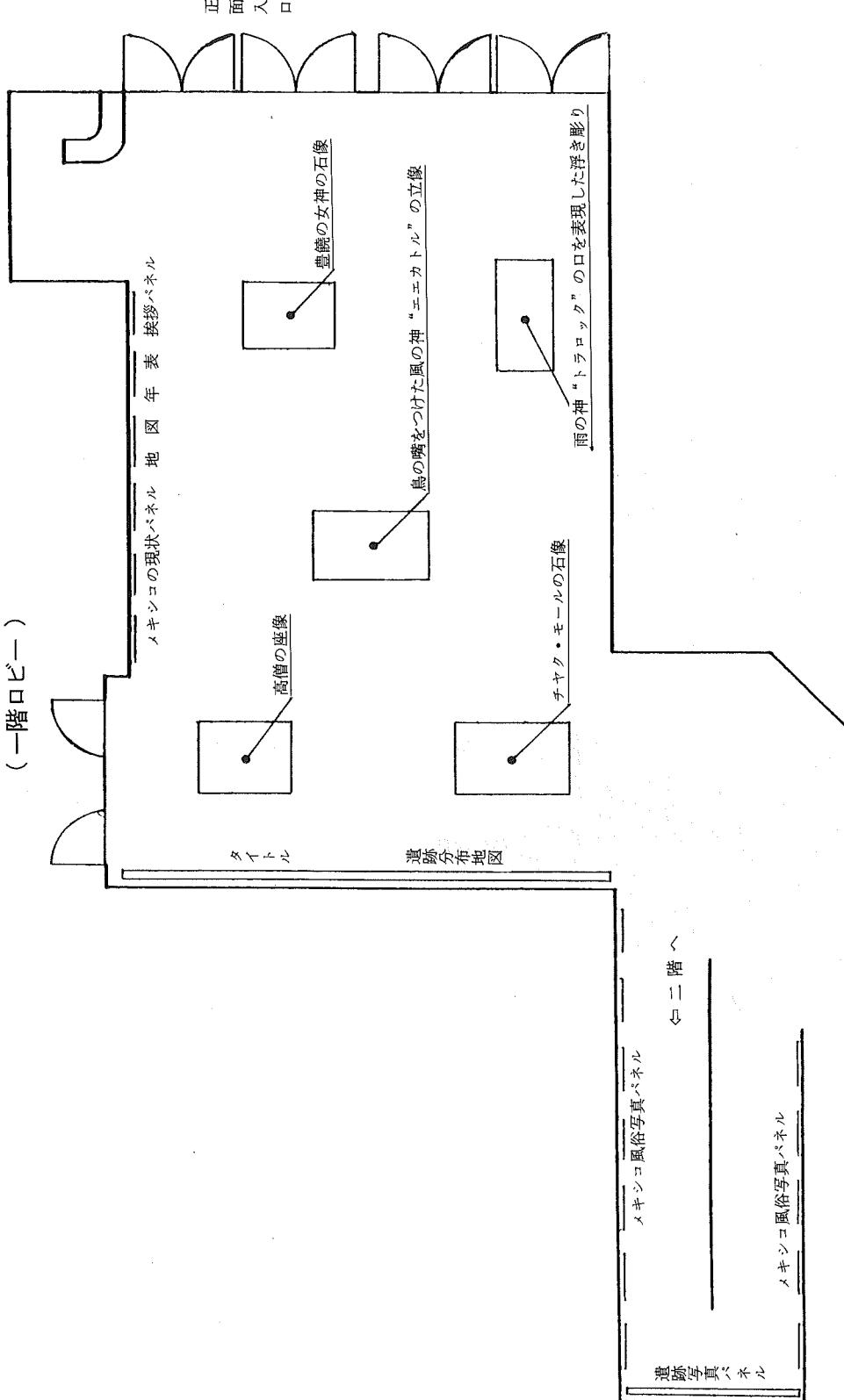


メキシコ協会による民族舞踊

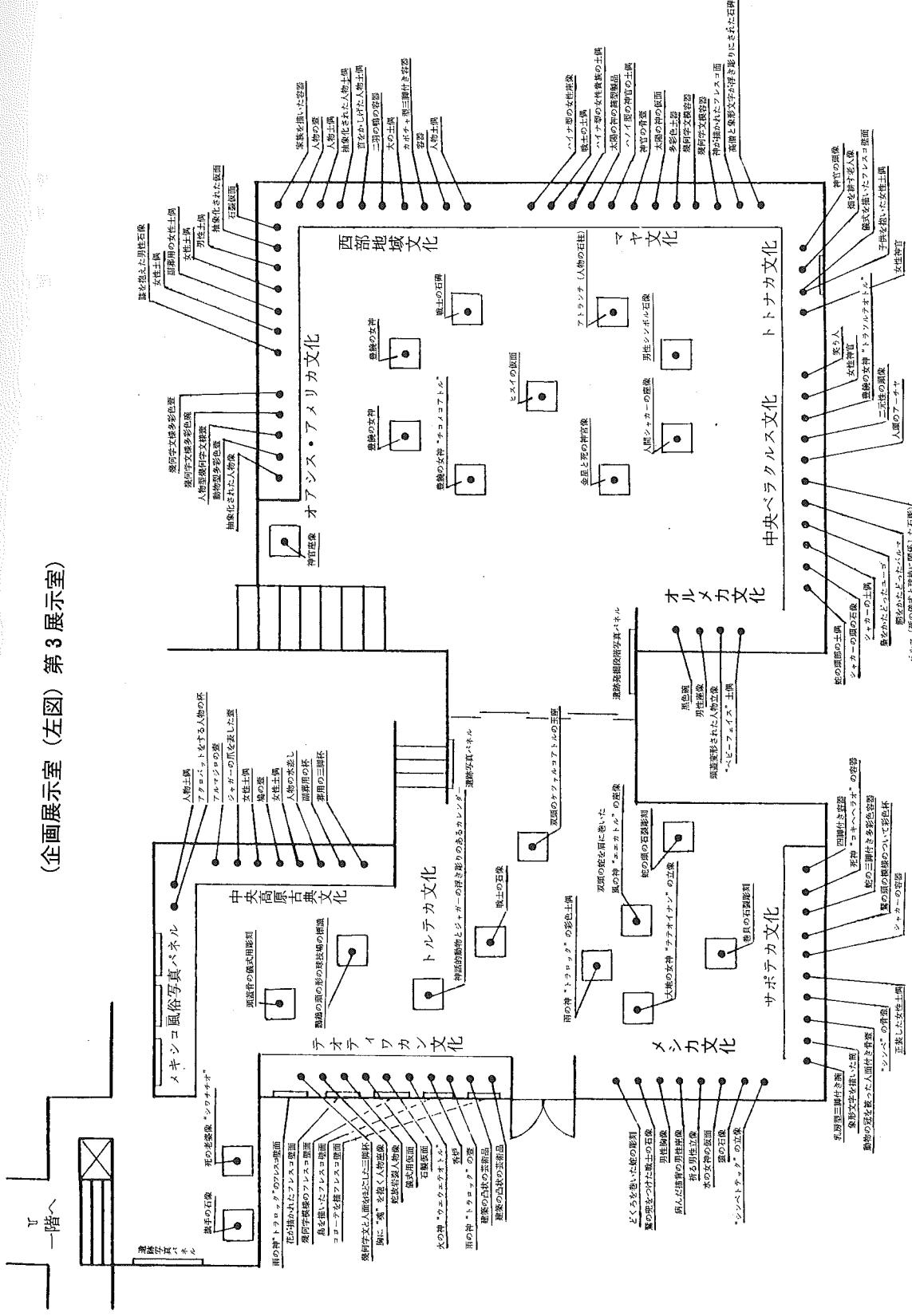


展示見学風景
(ワークシートを使って学習する小学生)

特別展「古代メキシコ至宝展」展示略図
(一階ロビー)



(企画展示室(左図) 第3展示室)



(2) 「沖縄の貝類～海からの贈りもの～」(担当：嵩原建二)

会期：平成4年8月1日（土）～8月30日（日）

会場：1階ロビー・第2展示室（自然室）、2階企画展示室・第3展示室

【開催趣旨】沖縄に生息する代表的な貝類について、実物標本と生態写真パネル等で紹介した特別展で、さらに世界の代表的な貝類についても紹介し、両者を比較する事により、沖縄の貝類相についての理解を深め、貝類に関心をもたせることをねらいとして、特別展は開催された。

この特別展で展示する実物標本のほとんどが、名護市久志で貝類標本館を開設している仲嶺俊子氏から寄贈されたものである。同コレクションは、総数約5,000種、11500点におよぶ膨大なコレクションである。

今回の特別展は、この「仲嶺俊子貝類コレクション」の実物標本を中心に、人の生活との関わりの深い貝の利用や、食料としての貝、道具としての貝、装飾品・美術工芸品等の中の貝、危険な貝類等についても展示を行い、生物としての貝だけでなく、貝の持ついろいろな側面について展示し、幅の広い貝の世界を紹介した。

実物標本以外に、生態的な展示として、沖縄の海にすむシャコガイやタカラガイなどの貝類を飼育し、さらにパラオ諸島から取り寄せた生きた化石とされる「オウムガイ」を飼育展示した。この展示コーナーは来館者から好評を博した。

また、本特別展と関連して、日本貝類学会会長の波部忠重氏による文化講演会「琉球列島の陸産貝の地理的分布」が開催され、また県内の児童・生徒を対象にした夏休み貝類鑑定会を開催し、夏休みの自由研究の一助となるように企画された展示会であった。

【開催形式】当館が主催し、琉球新報社の後援と沖縄貝類標本館、(株)沖縄フジカラーの協力で開催された。

【展示構成】

1、導入展示

オオシャコガイ 4個（ロビー）

2、生物界における貝類の位置と分類

貝の仲間は、世界に7類10万2千種あまりが知られている。こうした動物界における貝の仲間の位置や分類等について、導入展示のコーナーとして実物標本や写真・図版等のパネルでの展示が行なわれた。

3、沖縄の貝類

沖縄の様々な場所に生息する貝の生態や貝相の特徴等について、ジオラマ的なわかりやすい展示構成を行い、生息場所による貝類の違いや生態的な特徴、分布などについての理解を深める展示が行なわれた。

〈内容〉 1. 沖縄の貝相の特徴 2. 貝のくらし 3. さんご礁の貝

4. 岩礁海岸の貝 5. 砂浜海岸の貝 6. 低地林の貝

7. 山地の貝 8. 淡水の貝 9. 化石の貝

10. 沖縄の陸産貝類の地理的分布 11. 身近な貝の生態（水槽飼育個体）

12. オウムガイの飼育

4、貝と人間との関わり（企画展示室）

私たち人間の長い歴史の中では、貝との関わりは古く、例えば、先史時代の貝塚から発掘される貝の量を見ても、いかに食料や生活道具、装飾品として利用されていたかが理解できる。こうした貝と人との様々な関わりについて展示を行い、生物種としての貝だけでなく、歴史、民俗、美術・工芸等多岐にわたる貝の侧面について、実物標本や考古・民俗資料、美術・工芸品等の実物展示が行われた。

- 〈内容〉 1. 装飾品となる貝 2. 食料となる貝 3. 歴史書の中の貝
4. お金、財産としての貝 5. 美術工芸の中の貝 6. 民俗の中の貝
7. 養殖の貝（貝ボタン） 8. 文字や文学の中の貝 9. 危険な貝
10. 切手の中の貝

5、体験コーナー

子供達の体験・遊びのコーナーとして企画室中央に平台を設置し、貝のコマ、貝合わせ等の遊びが楽しめる場所を設置した。

6、世界の貝（美術工芸室）

貝類は世界で7類約10万2千種、日本で6類約6千種が知られている。これらの世界の貝について、各地域ごとの特徴をきわだたせながら、その地域に分布する貝類について、実物標本を中心に展示構成された。

- 〈内容〉 1. 日本の貝 2. 沖縄の貝 3. 東南アジアの貝
4. オーストラリアの貝 5. アフリカの貝 6. アメリカの貝
7. ヨーロッパの貝

〔関連行事〕

1、特別文化講座

期日：1992年8月15日（土）午後2時30分から

講師：波部忠重氏（元国立科学博物館動物研究室長）

演題：「貝のはなし」

場所：県立博物館講堂

2、夏休み貝類鑑定会

期日：1992年8月22日（土）～23日（日）

時間：午後1時～5時まで

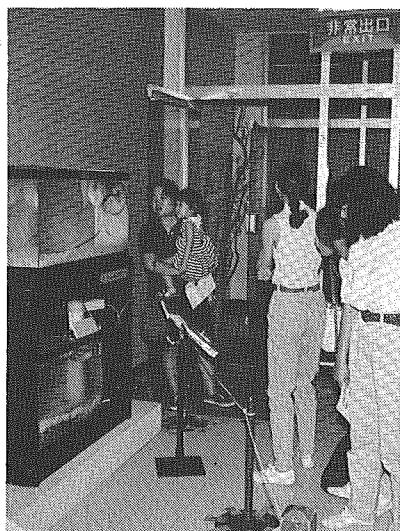
場所：県立博物館

〈その他〉

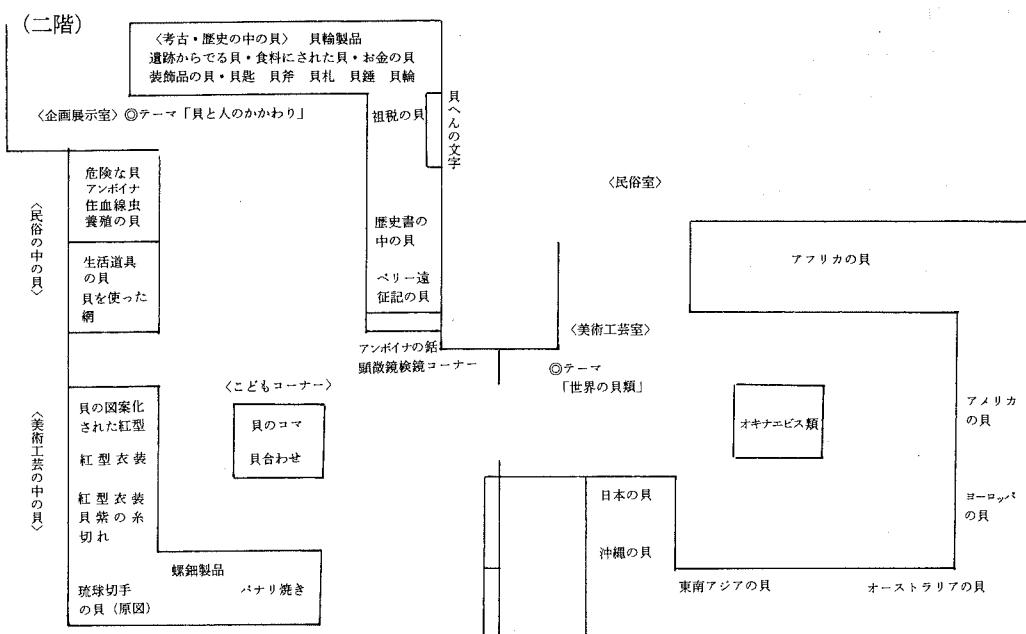
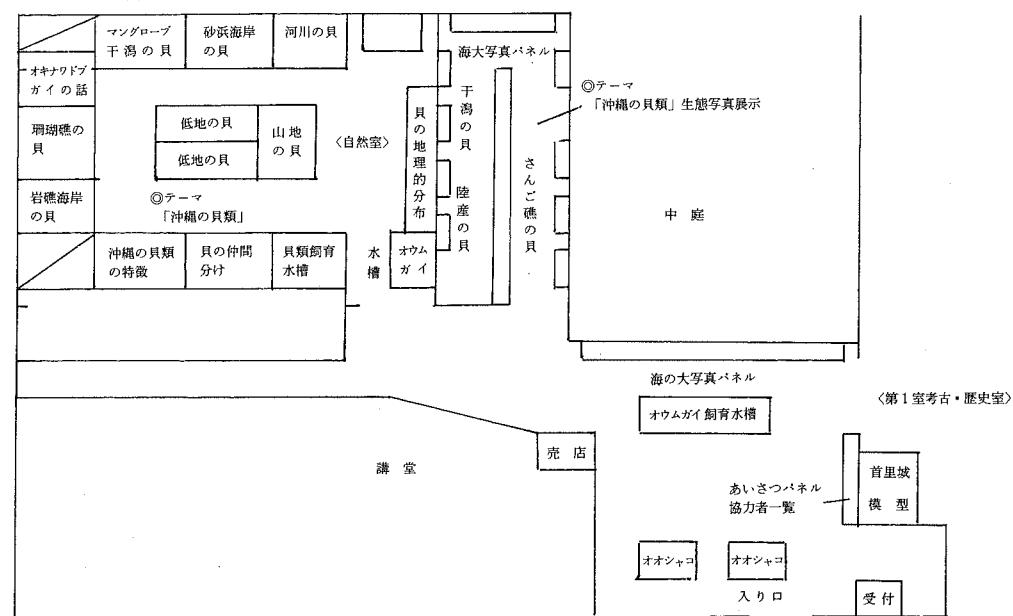
教育長表彰：沖縄貝類標本館館長 仲嶺俊子氏

理由：今回の展示会開催のきっかけともなる貝類の

標本の寄贈を行い、展示会に多大な尽力があったことに対する表彰。



(一階) 特別展「沖縄の貝類」展示構成図



(3) 「琉球王国－大交易時代とグスク」(担当：當眞嗣一)

会期：平成4年10月27日（火）～12月20日（日）

会場：1階ロビー・第1室・企画展示室・第3室・講堂。

〔開催趣旨〕沖縄県は、中国と東アジアの国々と東南アジア諸国との接点に位置して地理的に有利な条件を備えているため遠く琉球王国時代には、これ等の国々と経済・文化の交流を深め独自の歴史と文化を形成してきた。首里城正殿に掛けられていたと伝えられる「万国津梁の鐘」の銘には、舟を操り、世界のかけ橋とした大交易時代の琉球の気概がうたいあげられている。この基本精神は、過去から現在まで受け継がれ現代のわれわれにも大きな指針を与えていた。

本特別展は、今年が復帰20周年という節目になっており、先人のつくりあげてきた国際的な文化と経済の交流という偉大な歴史を掘り起こし、その成果をわかりやすく紹介することによって、あらためて沖縄の歴史と文化をみつめなおしていく目的として開催した。

〔開催形式〕当博物館が主催し、沖縄タイムス社の共催、全日空・南西航空を後援団体とし、株式会社フジカラーと沖縄コカ・コーラボトリング社の協力で開催した。

〔展示内容〕北海道から与那国までの琉球史関係資料・史料を集め3部構成で展示了。第1部「黒潮文化」、第2部「大交易時代」、第3部「琉球王国の歴史と文化」によって構成した。

第1部では、考古資料やその他の周辺資料によって大交易時代前史にスポットを当て、黒潮の流れと文化伝播について考えた。第2部では、日本、中国をはじめとして朝鮮・安南・シャム・ジャワ・スマトラなどの東南アジア諸国との中継貿易で栄えた琉球の大交易時代について海外交通史関係資料等を中心に考えた。第3部では、琉球史関係の歴史資料や美術工芸品をとおして琉球王国の歴史と文化について考えた。

〔関連催し物〕

①「大交易時代とグスク」フォーラム 11月28日（土）午後1時～5時

考古学、琉球史、海外交通史、貿易陶磁、城郭の各専門分野の先生方に琉球の大交易時代について講演してもらい、それをもとに「大交易時代とグスク」の歴史的意義について討議していただいた。

司会：池宮正治（琉球大学教授）

講師：大城立裕（作家）、嵩元政秀（沖縄考古学会会長）、金城正篤（琉球大学教授）、村田修

三（奈良女子大学教授）、矢部良明（東京国立博物館陶磁室長）

場所：沖縄県立博物館講堂

②グスクを歩く 12月29日（土）午後1時～5時

博物館学芸員の案内で首里城跡と中城城跡を巡りながら歴史の追体験を行った。

[展示資料目録]

別添資料

展示資料名	所蔵機関	展示資料名	所蔵機関
有珠10遺跡出土品 一括	札幌医科大学	ルソン南蛮	沖縄県立博物館
漂到琉球国記（複製）	宮内庁書陵部	器 3点（藍胎内朱漆鉢）（鶴蓮華文七宝盆）（朱漆垣松螺鈿卓）	京都檀王法林寺
指南広義	国立公文書館	尚寧王から檀王法林寺へ贈呈したタバ扇	京都檀王法林寺
大明一統志（89巻のみ）	国立公文書館	袋中上人像（1幅）	京都檀王法林寺
中山王来朝図	国立公文書館	彫画貝製品	奈良個人蔵
唐大和上東征伝	国立公文書館	大里城の雲板	淨智寺（奈良国立博物館へ寄託）
隋書（巻81のみ）	国立公文書館	豊見城王子の肖像図	松浦史料博物館
琉球往来図録	国立公文書館	朝鮮国王李書簡	都城島津家
王子按司大礼服並通常服着装図	東京国立博物館	琉球並諸嶋図	都城島津家
王子夫人大礼服並通常服着装図	東京国立博物館	中城王子上國船行列図	尚古集成館
沖縄県船舶図、楷船	東京国立博物館	御船立之図 1巻	鹿児島市立美術館
華夷通商考	東京国立博物館	鹿児島城下屏風	鹿児島市立美術館
貝輪 2個（スイジガイ製）松林山 古墳出土	東京国立博物館	鹿児島琉球館上使御取次第	鹿児島県立図書館
首里土族通常服着装図	東京国立博物館	大とう窃覧	鹿児島県立図書館
大目付へ和宮様御事（町田家文書）	東京国立博物館	大とう便覧	鹿児島県立図書館
中山王繼目之御礼申上候返翰之控	東京国立博物館	貝製腕輪（6点）（枕崎市松ノ尾 遺跡）	枕崎市教育委員会（久保春信氏寄託）
土屋相撲守宛中山王書状	東京国立博物館	進貢船掟	坊津歴史民俗資料館
琉球神道記	東京国立博物館	琉球と薩摩 島津義久 琉球渡 航船印判状	坊津歴史民俗資料館
和漢三才図会	東京国立博物館	島津義久 琉球渡航船印判状	国分市立郷土館
面纏前庭式土器（古我知原貝塚）	沖縄県教育委員会	掟十五条（町田家文書）	東京国立博物館
久米島大原貝塚出土の五銖錢	具志川村教育委員会	琉球国司尚益起請文	東京大学史料編纂所 蔵 島津家文書
青磁（佐敷グスク）	沖縄県教育委員会	琉球国司尚益書状	東京大学史料編纂所 蔵 島津家文書
東洞式土器（古我知原貝塚出土）	沖縄県教育委員会	徳川家治領知判物一通	東京大学史料編纂所
浦添城跡出土一括遺物	浦添市教育委員会	南島雜話	東京大学史料編纂所
浦添城跡出土の人骨	浦添市教育委員会	明刀錢	東京大学考古学研究室
琉球交易港図屏風	浦添市美術館	琉球国図（殷元良図）	西尾市立図書館
清水貝塚出土貝匙（数点）	具志川村教育委員会	中山物産考 田村藍水著	西尾市立図書館岩瀬 文庫
清水貝塚出土貝札（5点）	具志川村教育委員会	琉球調度図誌	西尾市立図書館岩瀬 文庫
戊戌走小唐船方陣賦	沖縄県立図書館	十六省之図	名古屋市蓬左文庫
中国福建の役所からの外交文書 道光福建布政司咨	沖縄県立図書館東恩納文庫	琉球楽器一式	財団法人徳川黎明会
那霸港の図	山城時計店	琉球楽器図巻	財団法人徳川黎明会
尚真王画像	鎌倉秀雄	琉球楽器入長棹	財団法人徳川黎明会
田名家文書（重要文化財）	田名弘	縞麻羽織	徳川黎明会
中国の古錢	翁長良明	交趾渡航貿易絵巻	名古屋屋情妙寺
琉球の古錢	翁長良明	香道具一括	名古屋市博物館
うやんまあの図	沖縄県立博物館	摺津名所図会	名古屋市博物館
おもろさうし	沖縄県立博物館	角屋皮製航海図	神宮徵古館
シャム南蛮	沖縄県立博物館	琉球貿易図屏風	滋賀大学経済学部附 属史料館
ノロの辞令書	沖縄県立博物館	袋中上人像 一幅	京都国立博物館寄託 (檀王法林寺)

他 250点

(4) 「尚家継承琉球王朝文化遺産展」(担当: 大城将保)

会期: 平成5年1月5日(火)～2月14日(日)

会場: 1階ロビー、第1室、スロープ壁面、企画展示室(2階ロビー)、第3室

〔開催趣旨〕旧琉球国の王家であった尚家(第2尚氏)が代々継承してきた王朝時代の文化遺産は、日本本土の文化をはじめ、遠く中国、朝鮮、東南アジア諸国との文化要素を取り入れながら独自の様式を完成させた琉球文化の精華といべきものであった。これら数多くの文化財は戦前まで東京の本邸と沖縄の中城御殿(尚家別邸)に分置してあったが、沖縄側にあったものは戦災によっておおかた消滅してしまった。幸い、東京本邸にあったものは、戦前戦後のきびしい環境の中にありながらも、尚家の多大な努力により保存されて今日に継承してきた。しかし、この歴史的、文化的に他に類例のない遺宝の数々は一般の沖縄県民の目にふれる機会がなく、現地における公開展示は県民がひさしく待望してきたものであった。今回、本土復帰20周年及び首里城正殿の復元という記念すべき時に、尚家第22代当主尚裕氏の格別のご理解とご協力によって、116件、207点におよぶ美術品と歴史資料を一堂に展示することができた。

今回展示公開されたものは、玉冠、唐御衣裳、靴、石帯、宝刀などの国王御身回りの品々をはじめ、王家のみにゆるされた豪華絢爛の紅型衣裳類、漆器、陶器、古文書、典籍など第1級の文化財ばかりである。

この機会に、多くの県民が香り高い琉球文化の神髄に触れるとともに、新しい沖縄文化の創造と発展のエネルギーとして生かしていくことを期待して特別展を開催した。

〔開催形式〕主催を沖縄県、沖縄県教育委員会、那覇市、琉球新報社の4者とし、定期的に連絡会議を開いて名実ともに共同の責任と任務分担によって短期間に準備作業を推進し、計画通りに会期を終えることができた。

また、展示資料の保管者である東京国立博物館(寄託)と松本事務所の全面的なご協力とご指導を得て、当館が展示部門を担当した。

〔展示内容〕

(1) シンボル展示(1階ロビー)

首里城正殿模型、万国津梁の鐘、大龍柱、識名園パネル写真等。

(2) 琉球王朝文化の精華①(第1展示室)

玉冠、唐御衣裳、宝刀千代金丸、治金丸などの国王御身回品、歴代国王に関する史書、御後絵写真、文書、典籍類、紅型、御絵図帳、金工、漆器、陶器等。

(3) 鎌倉芳太郎氏撮影の中城御殿所蔵品写真(スロープ壁面)

(4) 参考展示「県立博物館所蔵王家関係資料」(企画展示室)

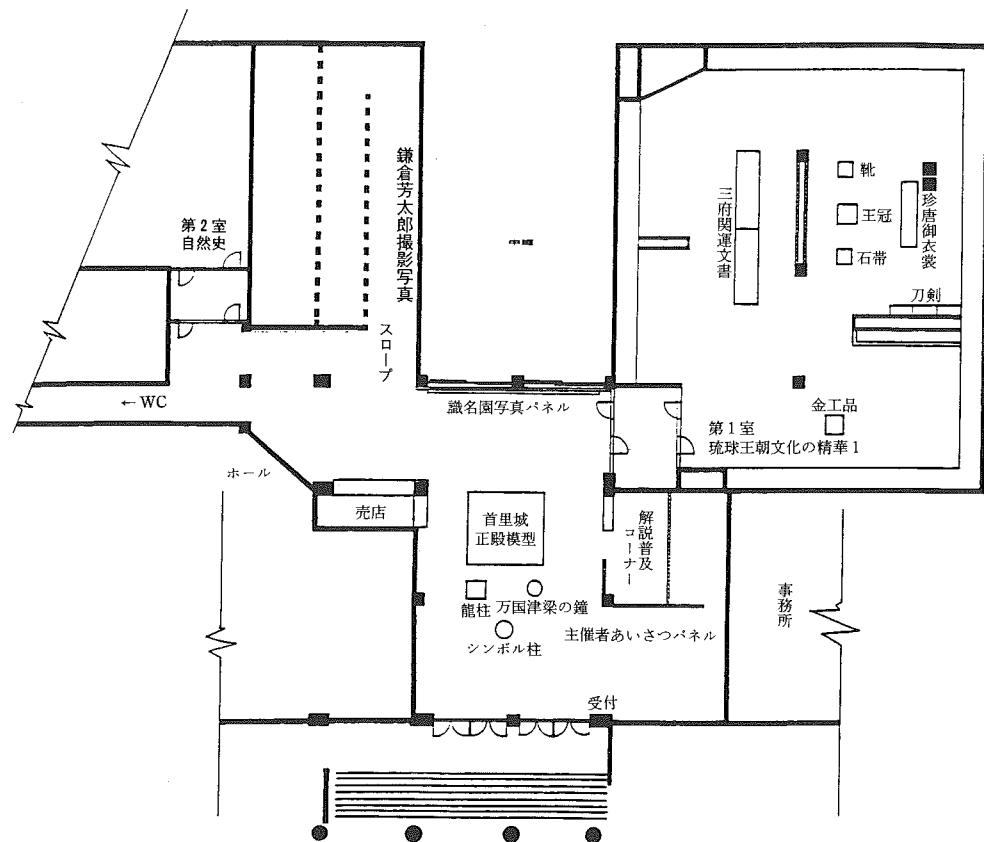
(5) 琉球王朝文化の精華②(第3展示室)

紅型を中心とする王家伝来の衣装類、異国船関係の日記類。

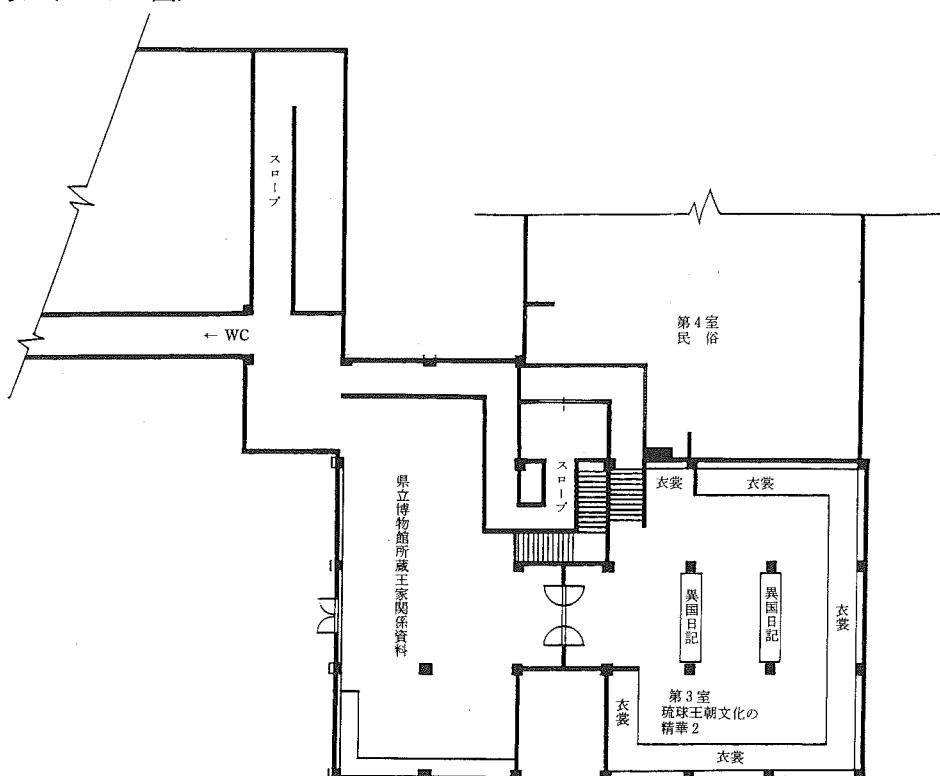
〔関連行事等〕琉球新報社と共同で、記念講演会、記念シンポジウム、座談会等を開催し、逐次新聞紙面で紹介した。また、図録は琉球新報社の名義で発行した。



〈館内レイアウト図〉 1F



〈館内レイアウト図〉 2F



3 企画展

(1) 平成3年度「新収蔵品展」(担当:與那嶺一子)

会期: 平成4年5月12日(火) ~ 5月24日(日)

会場: 企画展示室

【開催趣旨】博物館では、資料を収集し、保管し、調査研究し、その成果を展示することが、大きな目的となっており、特に博物館資料の収集活動は、展示を円滑にするうえで大切なことである。

「新収蔵品展」は、前年度に寄贈を受けたり、収集、購入、移管を通して得た資料を一堂に集め、広く一般に公開するとともに、今後の展示に役立てることを目的として実施するものである。

【展示内容】展示室の固定展示ケースには、歴史・美術工芸・民俗または自然史の各分野でまとめて展示した。また、展示室中央部に設置した平ケースには、歴史資料の書籍類を展示、石碑・厨子甕・農具等は、ケース無しの展示台にそのまま展示した。展示スペースに限りがあるために、収蔵されたすべての資料を展示することはできなかった。

【展示目録】展示に際してパンフレット「平成3年度新収蔵品展」を刊行し、その中で主な展示物を写真で紹介するとともに、新収蔵品の全目録を掲載した。なお、同目録は、『沖縄県立博物館年報 No.24』にも掲載されている。

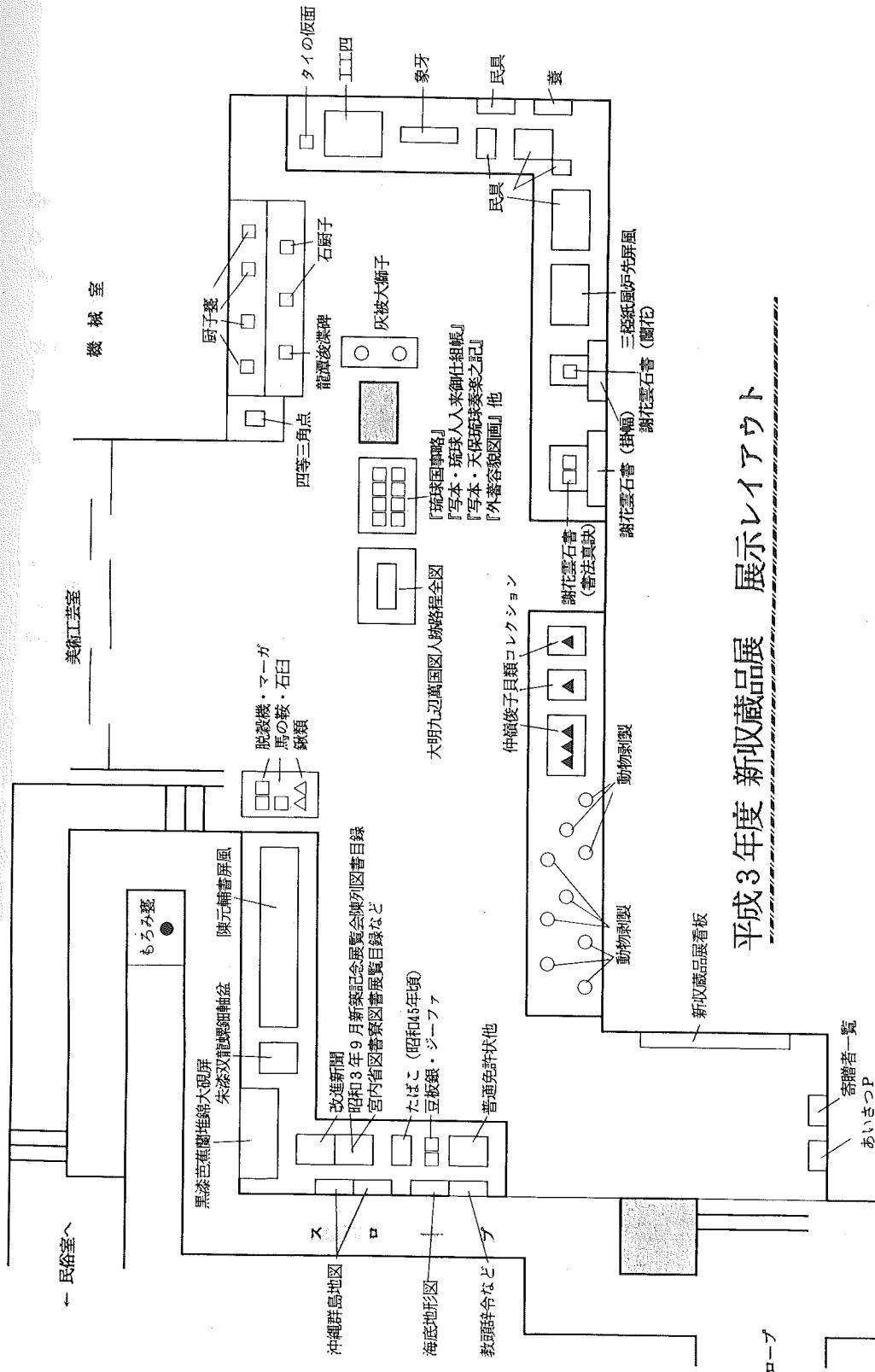
寄贈の部: 枠・ヘーベー・瓢箪笛・工工四・謝花雲石書・石臼・たばこ・三極紙風炉先屏風・灰被大獅子・壺型大獅子・木臼・石厨子・脱穀機・タイの仮面・沖縄群島地図・改進新聞・ジーファ(簪)・仲嶺貝類コレクション・普通免許状他

購入の部: 黒漆芭蕉蘭堆錦大硯屏・朱漆双龍螺鈿軸盆・陳元輔書屏風・安政豆板銀・獅子頭・『琉球国事略』・大明九辺萬国図人跡路程全図・『定西法師伝』・『琉球客談記』・『唐律御調』他

移管の部: 象牙

収集の部: 龍潭浚渫碑





(2) 謝花雲石展（担当：與那嶺一子）

会期：平成5年2月23日（火）～3月14日（日）

会場：企画展示室・第3展示室

〔開催趣旨〕沖縄の現代書道を語る際に、決して避けて通れないのが謝花雲石（本名：寛剛 1883～1975）である。雲石は、1911年（明治44年）に朝鮮に渡り、海岡・金圭鎮氏に師事し王羲之の書法を学び、1919年（大正8年）帰郷後、沖縄県庁に勤めるかたわら、書道研究所を開き後進の指導にあたる一方、書画展を開くなど、書の普及につとめた。

特に戦後は沖縄の書道普及に力を入れ、1972年（昭和47年）、第1回沖縄県芸術文化功労賞を受賞するなど、沖縄の芸術文化の発展に尽力した。

雲石没後17年が経過し、雲石を知らない世代も増えてきている。雲石は戦後沖縄を代表する書家であるとともに、書道を一般に広めた功績は大きく、今回の展示会を通して雲石の作品を紹介するとともにその生涯を展観する。

〔開催形式〕当館が主催し、雲石書道同好会の協力を得た。

〔展示内容〕企画展示室では、まず、雲石の師金圭鎮氏や于右任氏の写真・雲石が使った法帖・書道学院の看板・戦後まもない頃にトレイットペーパーに書かれた手本等から雲石を紹介した。続いて雲石が書いた書法真訣や篆隸楷行草の千字文抄・それぞれの書体による雲石書等・蘭花の手本や山水・達磨などの墨画を展示した。また、書籍閲覧コーナーでは、これまで雲石について書かれた書籍や新聞切り抜きのコピーを綴ったものを閲覧させた。第3展示室では、雲石作品の中でも八幅対の「蘭亭」「洛神賦」五幅対の「古碑々字」「漢碑々字」を中心に紹介した。

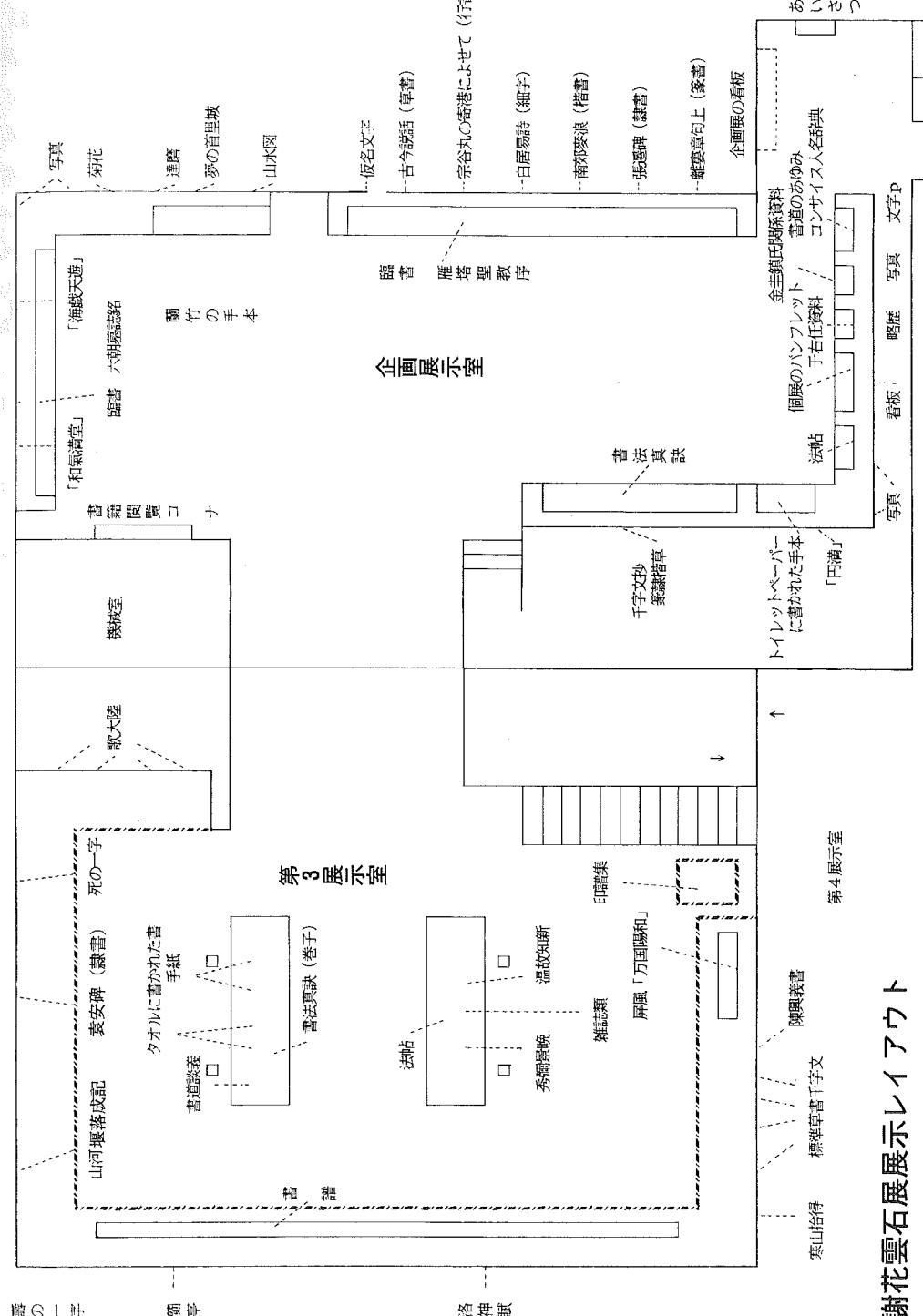
〔展示目録〕

雲石関係資料：雲石を知らない人のために（文字パネル）・謝花雲石略年譜（文字パネル）・
シサイス人名辞典・雲石筆「書道談義」（コピー）・個展のパンフレット・金
圭鎮氏写真・金氏の手本・于右任氏の写真・雲石書道学院の看板・雲石使用的
法帖（3冊）・タオルに書かれた雲石書（2点）・弟子に当てた手紙・雅号を
送る時に書かれた手紙他

雲石筆の手本類：トレイットペーパーに書かれた手本（4冊）・書法真訣他・篆隸楷草の千字
文抄・蘭の手本・竹の手本他

雲石作品：離婁章句上（篆書）・張遷碑（隸書）・南効麥浪（楷書）・白居易詩（細字）・宗
谷丸の寄港に寄せて（行書）・古今説話（草書）・柳は緑（仮名文字）・臨書「雁
塔聖教序」・山水図・夢の首里城（山水図）・達磨図・菊花・「海戲天遊」・額「円
満」・「和氣満堂」・臨書「六朝墓志銘」・「沖縄県庁」・歌大陸（楷書）・死の一
字・四字二行詩・袁安碑（篆書）・山河堰落成記・「温故知新」・「壽」の一
字・蘭亭（行書）・洛神賦（楷書）・臨書「書譜」・寒山拾得・標準草書千字文・陳
興義詩・屏風「万国陽和」・印譜集・「温故知新」・「秀彌景晩」他

〔付記〕この企画展の開催中、関連事業として文化講座「展示解説会『雲石翁について』」（文化講座の頁を参照）を開催した。また、図録として『謝花雲石』を刊行した。



謝花雲石展展示レイアウト

4 移動博物館

第16回移動博物館

会期：平成5年1月23日（土）・24日（日）

会場：波照間小学校体育館

観覧料：無 料

主催：沖縄県立博物館・竹富町・竹富町教育委員会

【趣旨】当館の利用に不便を感じる離島や遠隔地において、博物館活動を公開し、参加することによって、文化の広域普及をはかることを目的とする。第16回は竹富町波照間島において開催した。

【内容】〈展示会〉〈ビデオ〉〈文化講座〉〈史跡巡り〉で構成した。展示は考古・歴史・自然・美術工芸・民俗の5分野別とし、それに戦前の沖縄の風景を写した写真パネルを加えた。そして、特に今回は、西表島関係の展示コーナーを設けた（展示目録参照）。展示会場にビデオ放映コーナーを設けた。文化講座は、波照間集落センターで催した。

【ビデオ放映】「琉球の風物」「琉球の民芸」「東洋のガラバゴス」「酒だ忍法コノハチョウ」「トンボの愛はハート型」「八重山芸能のタベ」他

【文化講座】日時：1月23日（土）午後7時～9時

場所：波照間集落センター

演題：「波照間島からみた八重山の歴史」

講師：石垣久雄（八重山高等学校教諭）

【島内史跡巡り】日時：1月24日（日）午後9時～正午

対象：小・中学生

講師：新城康佑（竹富町文化財保護審議委員）

講師：當眞嗣一（沖縄県立博物館教育普及課長）

【入場者数】展示会 267人

文化講座 42人

史跡巡り 30人 合計339人

【予算】国庫補助を得て、総額6,001,000円。内訳は、諸謝金（22,000円）、旅費（1,125,000円）、消耗品費（329,000円）、印刷製本費（430,000円）、通信運搬費（4,095,000円）。

【展示品目録】

【考古】

港川人想定復元全身像、下田原式土器（下田原貝塚出土）、外耳土器（平久保遺跡出土）、青磁碗（国指定史跡首里城跡出土）、貝斧（浦底貝塚出土）、石斧（下田原貝塚出土）、大山式土器（国指定史跡大山貝塚出土）、褐釉陶器（平久保遺跡出土）、青磁碗（国指定史跡勝連城跡出土）、貝斧《複製》（フィリピン出土）

【パネル】

勝連城跡空中写真、下田原城縄張図、下田原城（写真）、首里城跡（写真）、沖縄島考古編年表、沖縄古代史地図、先島文化の源流、日本近海の海流、具志川城想定復元鳥瞰図、フルスト原遺

跡縄張図、タカフク城（写真）、勝連城跡（写真）、先島考古編年表、先島古代史地図、大交易時代とグスク

【歴史】

拓本・パネル

万国津梁の鐘鐘銘、円覚禪寺記、国王頌徳碑、安國山樹花木之記碑、ようどれの碑文（裏・表）
古錢類

琉球通宝（円形）、琉球通宝（楕円形）、洪武通宝、嘉慶通宝、康熙通宝、紹熙通宝、永樂通宝、
成豐通宝、光緒通宝、大中通宝、淳熙通宝、嘉泰通宝、開禧通宝、瑞平通宝、元豐通宝、嘉熙
通宝、崇寧通宝、乾隆通宝、咸字元宝、天聖元宝、鳩目錢、寛永通宝、金円世宝・世高通宝、
大世通宝

勾玉類

18個連リング、8個連リング、ビーズリング、小勾玉にビーズ付きリング

印 章

尚育王の印

金工品

かんざし

典籍類

おもろさうし（複製本）、中山世鑑（複製本）、沖縄志琉球人行列記、琉球三省并三十六嶋図
朝鮮琉球全図

その他

尚寧王妃墓誌、首里旧城図（写真）、ランドサット沖縄諸島（写真）

石垣市立八重山博物館所蔵資料

写真パネル・～戦前の沖縄～

〈鎌倉芳太郎撮影〉

尚真王御後絵、首里城正殿、円覚寺仏殿、首里那覇全景、北殿、歓会門、瑞泉門、白銀門

〈坂本万七撮影〉

円覚寺三門、識名園、玉陵、壺屋風景、壺屋の陶房、ハンタン山、青空教室、木臼つくり、苧
びき、機織り、葬式行列、市場風景、カメを売る店、墓（那覇辻原）、港の風景、首里城正殿
の欄干、サーターアー風景、サーターグルマ、竹製品を運ぶ荷馬車、那覇東町の布町、風呂敷
糊引き（那覇久茂地）

泡盛関連写真

八重山風俗図、タイ米の輸入、黒麹菌の胞子、酵母菌、シンセキと洗米、米蒸しの作業、麹作
業（麹菌を混ぜる）、麹作業（カチャイ）、麹作業（ティーミ）、もろみのかくはん、もろみを
蒸留器へ移す、蒸留器、瓶詰めの作業、琉球泡盛、泡盛の鑑評会（現在）、店頭の泡盛（現在）

【自然史】

古生物

マンモス（全身骨格）、プロトケラトプス（全身骨格）、プロバクトロサウルス（全身骨格）、
恐竜の卵の化石、コレニア（世界最古の化石）

沖縄の生物

〈写真パネル・～天然記念物～〉

コノハチョウ、ヤンバルテナガコガネ、ナミエガエル、ホルストガエル、イボイモリ、クロイワトカゲモドキ、リュウキュウヤマガメ、カンムリワシ、ノグチゲラ、ケラマジカ、イリオモテヤマネコ、ダイトウオオコウモリ

〈写真パネル・～野鳥～〉

コチドリ、バン、セッカ、コサギ、シロハラクイナ、メジロ、ヒヨドリ、カワセミ、クロサギ、セイタカシギ、ズアカアオバト、イソヒヨドリ、シロハラ、サンコウチョウ、ササゴイ、ハクセキレイ、ミフウズラ、ダイシャクシギ、タゲリ、ムナグロ、リュウキュウヨシゴイ

剥製標本

ゴイサギ、タゲリ、ヒクイナ、アカショウビン、シロハラクイナ、ノグチゲラ、ヤンバルクイナ、リュウキュウヨシゴイ、ヤマシギ、カルガモ、ズアカアオバト、コガモ、サンコウチョウ、シロハラ、カラスバト、キンバト、ヨタカ、コノハズク、オオコノハズク、トラツグミ、オリオオコウモリ、イリオモテヤマネコ、サシバ、ハブ

貝類標本タカラガイ類

ホシダカラ、ホシキヌタガイ、ハナビタガカラ、キイロダカラ、クロユリダカラ、ハチジョウダカラ、ウミウサギ、ウキダカタ、オトメダカラ、ゴマダカラ、アヤメダカラ、エダカタ、ヒナメダカラ、ニッポンダカラ、コモンダカラ、カノコダカラ、ヤクジマダカラ、ウミナシジダカラ、チドリダカラアラガイ、サバダカラ、ホンサバダカラ、クチムラサキダカラ、ホンハナマルユキダカラ、テツアキチドリダカラ

昆虫標本

トンボ類、甲虫類、セミ類、カマキリ、バッタ類

【美術工芸】

漆 器

黒漆山水楼閣螺鈿六角食籠、

陶 器

〈壺屋焼〉

緑釉嘉瓶、赤絵徳利、アンダガーミ、釘彫抱瓶、飴釉流なまこ釉香炉、白釉黒流からから、緑釉花弁型盛皿

〈湧田焼〉

鉄絵碗

絵 画

八重山風俗絵図、江戸上り行列図

書 跡

紅葉如醉（宜湾朝保書）、海不揚波（古波蔵爾方書）

織 物

芭蕉桐板黄色地総絣文様上衣、木綿紺地花織ティサージ

紅 型

絹稻妻に花の丸文様衣装（復元）、紅型型紙、御絵図（復元）

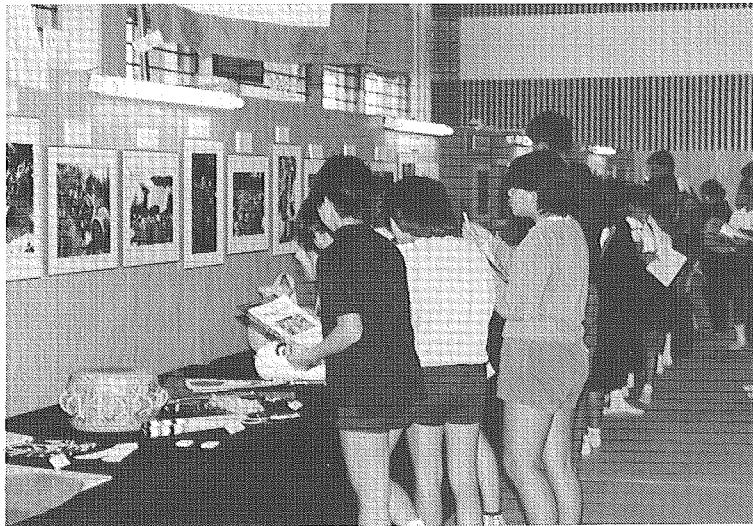
【民 俗】

竹製品

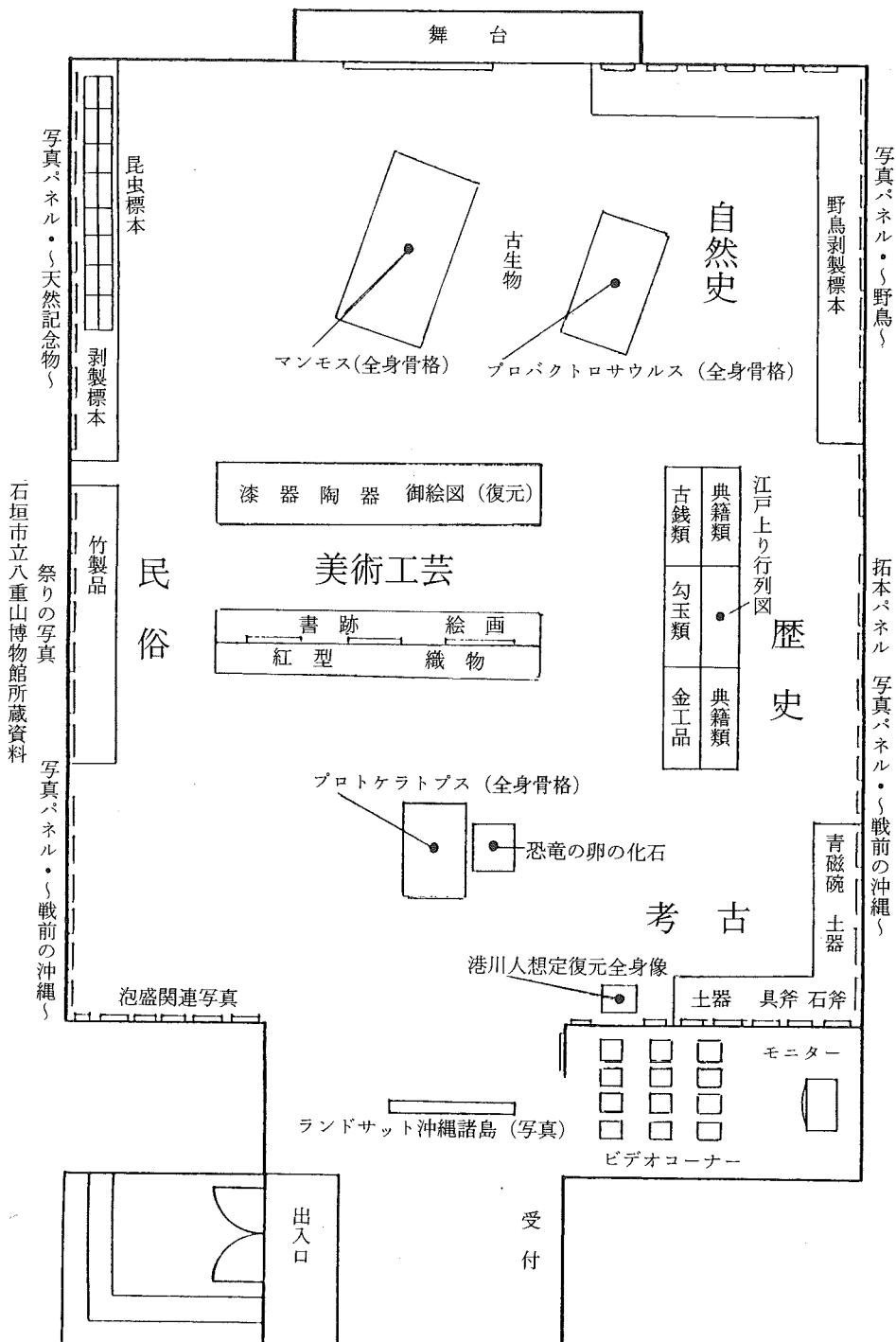
甕型花籠、縄耳付花籠、立差花籠、山形立差花籠、窓の月花籠、茄子型花籠、乱れ差花籠、流れ差一輪生、丸竹満月花生、丸竹花台、丸竹一輪差、麻型花輪、南瓜型花籠、蘇鉄差一輪生、壁掛け一輪生、茶碗入籠、盛籠、手付果物盛籠、飯籠、水切籠、四目平笊、御盆、文庫、ウーバーラー

祭りの写真

ムシャーマ、二十日正月、土帝君、ミーミンメー、プーリィ（1）、プーリィ（2）、塩屋のウンジャミ、比地のウンジャミ、安田のシヌグ、糸満のハーレー、大山の綱引き、千原のエイサー、アンガマー、屋部の八月踊り、多良間の八月踊り、那覇の大綱挽き、西表の節祭、マウンガナシイ、パーントゥ、イザイホー、カンブナガ



展示見学風景



第16回移動博物館展示略図
(波照間小学校体育館)

IV 教育普及活動

1 活動の概要

沖縄県が本土に復帰して今年で20年になる。復帰20周年という歴史的節目の年にあたり、今年は学術的な会議をはじめとしていろいろなイベントが県内各地で開催された。当博物館でも「琉球王国一大交易時代とグスク展」や「尚家継承琉球王朝文化遺産展」等の特別展が開催されて大好評のうちに幕を閉じた。教育普及活動についても、特別展に伴う文化講座として「大交易時代とグスク」フォーラムやグスクを歩くなどもりたくさんの特別企画が実施された。さらに、学校の週5日制の実施に向けて県内の児童・生徒が自主的に博物館学習ができるようワークシートの作成を行なうとともに、学校が行う博物館学習の事前打合せ、学習プログラムの作成を行なうなど生涯学習への関心の高まりに応えていくための努力をしてきた。今後も地域の学習需要に応じて多様な学習の機会が提供できるよう教育普及活動の充実を目指しがんばっていくつもりである。

今年度に実施した主な教育普及活動の内容については次のとおりである。

- 1、博物館文化講座の開催
- 2、移動博物館（竹富町波照間）の開催
- 3、ワークシートの作成事業
- 4、観覧者への展示室解説
- 5、児童生徒団体見学者へのオリエンテーション
- 6、展示室学習の事前打合せ
- 7、夏休み「歩く・見る・作る」教室の開催
- 8、団体見学者へのビデオサービス
- 9、ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だより等の編集・発行
- 10、博物館事業のマスコミ等への広報活動
- 11、友の会への指導や援助

2 教育普及活動

「博物館ワークシート」作成事業のとりくみ

昭和63年度小学生のための「博物館学習ノート」、平成1年度中学生のための「博物館学習ノート」、平成2年度高校生のための「博物館学習ノート」を作製し、県内の小・中・高に配付した。各学校では、博物館での郷土の学習の資料として、教科指導や学校行事で利用している。

平成4年度はその成果を踏まえ、博物館ワークシートの作成に取り組んだ。その概況を報告する。

〈趣旨〉

当館では、日本の中でも特異的な位置を占める沖縄の歴史・自然史・美術工芸・民俗の実物資料を、わかりやすく学習できるように、教育的配慮のもとに展示してある。

博物館で郷土の学習がより効果的に進められるように、展示資料に添ったワークシートを作成した。

ワークシートは、県内小・中・高校に配付し、博物館での郷土学習ができるようにした。

〈本事業の必要性〉

本県の教育目標のひとつに、「郷土文化の継承・発展に寄与する県民の育成」がある。その具現化には、教育の実践の場である学校や博物館等の社会教育施設に負うところが大きいが、実際のところ学校現場では、正規のカリキュラムをこなすのが精一杯で、通常の授業の中で、地域素材をつかって郷土の授業展開をするには、少々時間的に無理があるようである。

さらに、学校においては、郷土の学習のための実物資料が少ないことも、それに拍車をかけているようである。

このような学校現場を、側面から援助できるところが博物館である。博物館には豊富な実物資料がある。それを児童生徒に直に見せ、触れさせることによって、郷土文化に対する興味・関心を高めていくとともに、地域文化の継承・発展へつながっていくことが期待される。

そこで、本ワークシート作成事業は、博物館における郷土の学習を、側面から支援し、学校週5日制（平成4年9月から毎月第2土曜日休日）に対応するためにも緊急かつ必要な事業である、と位置づけスタートした。

〈事業のとりくみ〉

ワークシートの作成事業をスムーズに遂行するために、各展示室毎に作成委員会を設置した。作成委員会の内容は以下のとおりである。

○作成委員および作成委員会

- 作成委員：4展示室毎に小・中・高の先生方を各1名委嘱した。
- 構 成：各展示室毎に3名の委員と担当学芸員で構成した。
- 運 営：作成委員3名の中から世話役を互選し、世話役を中心に委員会活動を運営した。担当学芸員は作成作業がスムーズに行なわれるように側面から資料提供等の援助を行なった。
- 任 務：学校教育と博物館教育との連携のために
 - ①現展示ストーリ・展示資料の研究
 - ②各教科の指導内容（カリキュラム）と展示資料との関連性の研究
 - ③小・中・高一貫した郷土の学習の指導内容と展示資料との関連性の研究
 - ④各展示室の展示内容・展示物についてのワークシートの素材の研究および学習素材の決定
 - ⑤ワークシートの原稿執筆および作成

• 委員名：歴史

金城 明美（平敷屋小学校教諭）

平良 信明（鏡原中学校教諭）

新城 俊昭（那覇高等学校教諭）

自然史

上里 進（与儀小学校教諭）

長嶺 邦雄（小禄中学校教諭）

与儀 玲子（球陽高等学校教諭）

美術工芸

山中 久司（伊良波小学校教諭）

田場 健章（琉球大学教育学部附属中学校教諭）

翁長 直樹（開邦高等学校教諭）

民 俗

國仲 康浩（前島小学校教諭）

崎原 恒新（越來中学校教諭）

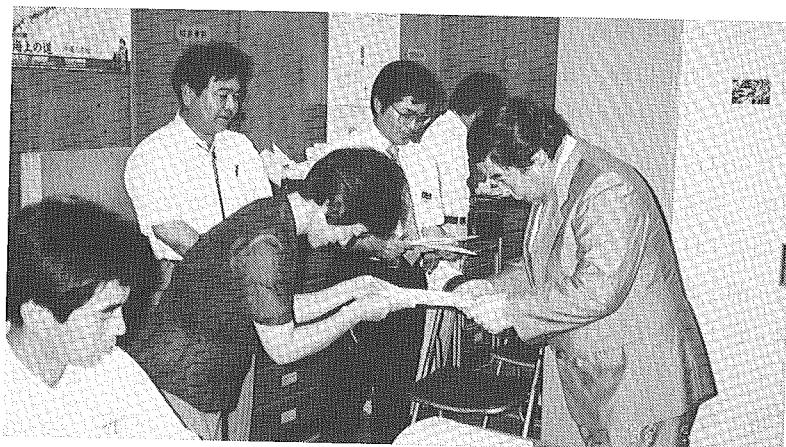
野原 廣亀（民俗研究家）

〈ワークシートの規格〉

○B5版・左閉じ・ノリ付け製本（ミシン糸なし）

○1ページ・1テーマワークシートにする

○各展示室24素材24ページ予定



博物館ワークシート作成委員会式

3 博物館文化講座

第212回 「近世琉球の王朝祭祀について」

日時・場所：4月18日（土）当館講堂

参加者：27名

講 師：豊見山和行（琉球大学助教授）

内 容：琉球王国時代に首里城を中心として行なわれた祭祀・儀礼について史料をもとに解説した。

第213回 「5.15記念：復帰20周年を振り返る」

日時・場所：5月16日（土）当館講堂

参加者：57名

講 師：大城 将保（当館学芸課長）

内 容：戦後史の上で沖縄の自治権拡大の足跡をたどった。

第214回 「子供の遊びと文化」

日時・場所：6月6日（土）当館講堂で行う予定が、講師が病気のため中止となつた。

第215回 「アメリカ大陸の古代文明 メキシコとペルー」

日時・場所：6月27日（土）首里公民館

参加者：130名

講 師：大貫 良夫（東京大学教授）

内 容：アメリカ大陸の二大文明、メソアメリカとアンデスの文明の成り立ち、諸
・特徴を比較しつつ、両者の独特の性格を説明し、これらの文明の人類史
的意義にも言及した。

第216回 「中城御殿の御道具」

日時・場所：7月18日（土）当館講堂

参加者：87名

講 師：真栄平房敬（那覇市文化財審議委員）

内 容：明治以降、国王が移り住んだ中城御殿で使用された道具類をとおして御殿
での日常生活を語った。

第217回 「貝のはなし」

日時・場所：8月15日（土）当館講堂

参加者：111名

講 師：波部 忠重（元国立科学博物館動物研究室長）

内 容：海にすむ貝を中心に、不思議で興味深い貝のくらしぶりについて紹介した。

第218回 「イリオモテヤマネコの話」

日時・場所：9月19日（土）当館講堂

参加者：20名

講 師：比嘉 源和（沖縄子どもの国飼育係長）

内 容：長年にわたる「ケイタ」の飼育をとおしてイリオモテヤマネコの習性など
について紹介した。

第219回 「ハングルととうがらし」

日時・場所：10月17日（土）当館講堂

参加者：24名

講 師：津波 高志（琉球大学助教授）

内 容：長年韓国文化の調査を行っている講師の実体験をとおして韓国文化を沖縄
文化との関わりで紹介した。

第220回 「グスクを歩く」

日時・場所：12月19日（土）沖縄本島中部地域

参加者：120名

講 師：當眞 嗣一（当館教育普及課長）

内 容：沖縄本島中部のグスクを歩き、グスクの縄張りなどについて解説した。

第221回 「沖縄の染色」

日時・場所：1月16日（土）当館講堂

参加者：70名

講 師：伊元 幸春（沖縄県工芸指導所主任研究員）

内 容：最新の研究結果をもとに沖縄の染織文化をささえる植物染料について解説

した。

第 223 回 「雲石翁について」

日時・場所：3月6日（土）当館講堂

参加者：150名

講 師：曾根 信一（沖縄県博物館協会理事）

内 容：沖縄を代表する謝花雲石の人となりと生涯について、作品をとおして解説した。

特別講演 「異文明とのあい～九州各地に文明のあとをたどる～」

日時・場所：11月7日（土）当館講堂

参加者：190名

演 題：「文化と文明」

講 師：徳川 義宣（徳川美術館館長）

演 題：「沖縄の民俗文化に見る異文化接触」

講 師：比嘉 政夫（琉球大学教授）

特別講演 「琉球王国～大交易時代とグスク～フォーラム」

日時・場所：11月21日（土）当館講堂

参加者：250名

司 会：池宮 正治（琉球大学教授）

講 師：大城 立裕（作家）

嵩元 政秀（沖縄考古学会会長）

金城 正篤（琉球大学教授）

村田 修三（奈良女子大学教授）

矢部 良明（東京国立博物館陶磁室長）

内 容：琉球史、海外交通史、貿易陶磁、城郭、考古学の各専門分野の先生方に琉球の大交易時代について語ってもらった。

4 夏休み「歩く、見る、作る」教室

「史跡巡り」

日時・場所：7月25日（土）首里城周辺

参加者：93名

講 師：當眞 嗣一（当館教育普及課長）

内 容：首里城周辺の史跡を歩きながら、親子で文化財の学習をした。

「ネイチャー・ゲーム」

日時・場所：8月9日（土）末吉公園

参加者：27名

講 師：山田 育（ネイチャー・ゲーム指導員）

仲里 郁子（ネイチャー・ゲーム指導員）

内 容：ゲームをしながら、五感で自然のしくみ、やさしさを感じとり自然に対する感覚を育てる、楽しいゲーム遊び。

「ホームビデオの作りかた」

日時・場所：8月23日（土）当館講堂

参加者：9名

講 師：西村 治良（NHKディレクター）

内 容：家庭にあるビデオカメラを使って、撮影、編集のしかたを習得する。

「旧中城御殿埋蔵文化財発掘調査体験発掘」

日時・場所：6月14日（日）旧中城御殿（当館内の発掘現場）

参加者：50名

指導者：當眞 嗣一（当館教育普及課長・考古学担当）

上地 克哉（県教育庁文化課調査嘱託員）

「発掘現場説明会」

日時・場所：6月14日（日）旧中城御殿（当館内の発掘現場）

参加者：30名

説明者：當眞 嗣一（当館教育普及課長・考古学担当）

上地 克哉（県教育庁文化課調査嘱託員）



発掘現場説明会

V 調査研究等の活動

〔概要〕

学芸員による調査研究活動は博物館活動の重要な柱をなすものである。調査研究活動は館としてテーマを設定して取り組む共同研究と、学芸員の各担当分野における個別研究があるが、本年度は復帰20周年記念事業や特別展等が輻輳しているため、とくに館としての総合調査や共同研究は実施しなかった。しかし、本年度中に実施した特別展及び企画展（「琉球王国」展、「沖縄の貝類」展、「謝花雲石」展等）は数年来蓄積してきた調査や研究の成果が結実したものである。

1 調査研究

大城 将保（主幹兼学芸課長）

○沖縄農地制度資料調査

期 間：1992年6月～

依頼機関：沖縄農地制度資料集成編集委員会

當眞 嗣一（主幹兼教育普及課長）

○旧中城御殿発掘調査

期 間：1992年4月13日～7月1日

依頼機関：沖縄県立博物館

○琉球王国展展示資料調査

期 間：8月31日～9月3日

依頼機関：沖縄県立博物館

○琉球王国展展示資料調査

期 間：9月9日～9月12日

依頼機関：沖縄県立博物館

○奄美大島文化施設調査

期 間：7月21日～24日

依頼機関：西原町教育委員会

上門 清春（指導主事）

○南風原町における土壤動物の調査

期 間：1992年4月～1993年3月

依頼機関：南風原町教育委員会

成 果：南風原町史自然編にまとめる予定。

萩尾 俊章（学芸員）

○生涯教育推進事業「子どもの世界」の調査

期 間：1992年4月～1993年3月

依頼機関：沖縄県立博物館

成 果：教育普及書『子どもの世界』として刊行

○沖縄民俗芸能緊急調査

期 間：1992年 月～1993年3月

依頼機関：県教育庁文化課

- 成 果：1993年度に調査報告書としてまとめる
大城 學（専門員）
- 県内所在琉球三味線調査
期 間：1992年7月～1993年3月
依頼機関：沖縄県教育庁文化課
成 果：1993年3月にその成果を沖縄の三線報告書としてまとめる
- 西表島古見の伝統文化の調査研究
期 間：1992年9月
依頼機関：沖縄県立芸術大学附属研究所
成 果：1995年3月にその成果を報告書としてまとめる
- 沖縄県の民俗芸能緊急調査
期 間：1992年11月～1993年3月
依頼機関：沖縄県教育庁文化課
成 果：1994年3月にその成果を報告書としてまとめる
- 沖縄県振興開発計画推進計画調査協力員
期 間：1992年12月～1993年3月
依頼機関：文化庁文化財保護部伝統文化課
成 果：1993年3月にその成果を沖縄県振興開発計画推進計画調査報告書としてまとめる
- 竹富町古謡集編集委員
期 間：1993年3月
依頼機関：竹富町教育委員会
成 果：1993年度にその成果を竹富町古謡集第2集としてまとめる
- 嵩原 建二（指導主事）
- 特殊鳥類等生息環境調査
期 間：平成4年4月1日から平成5年3月31日
依頼機関：沖縄県環境保健部自然保護課
- 名護市動植物総合調査
期 間：平成4年4月1日から平成5年3月31日
依頼機関：名護市教育委員会
- 大宜味村動植物総合調査
期 間：平成4年4月1日から平成5年3月31日
依頼機関：大宜味村教育委員会
- 與那嶺一子（学芸員）
- 「子どもの世界」資料収集調査
期 間：1992年8月～3月
調査場所：東京国立博物館／日本民藝館／久米島／大宜味村
成 果：教育普及書「子どもの世界」に収録刊行

2 著作論文

大城 将保

- 「よみがえる八重山上布」『文化庁月報』1992年12月
- 「琉球王朝始末記」『歴史と旅』1993年1月
- 「悲劇の琉球国王・尚寧」『歴史と旅』1993年3月

當眞 嗣一

- 「首里城遺構から見たその特徴」『甦る首里城—歴史と復元—』首里城復元
期成会 1993年3月15日。
- 「グスクの縄張りについて（上）」『沖縄県立博物館紀要』第19号 1993年3月。
- 「歴史の道」「首里城跡」「沖縄城跡」「沖縄県風土記」1993年2月。
- 「歴のはじまりと子どもの生活」『子どもの世界—沖縄本島地区編—』1993年3月。

上門 清春

○教育普及活動

- 「ホットニュースのとりくみ」
- 『ミュージアム・マガジン・ドーム』

1992年6月 日本文教出版株式会社 企画開発部「DOME」

○戦争・敗戦そして復興のなかで—食との闘い—

『教育普及書・子どもの世界』県立博物館 1993年3月

○博物館における教育普及活動のとりくみ

『沖縄県立博物館紀要』第19号 県立博物館 1993年3月

萩尾 俊章

- 「琉球王国の歴史」（上）・（下）『プリーズ』11月号・12月号 1992年九州旅客鉄道株式会社
- 「酒と宴」「泡盛をつくる人々」『江戸時代 人づくり風土記 47 沖縄』1993年1月 農山漁村文化協会
- 「那覇・泊系土族家譜にみる家系の継承（I）－女性元祖と他系養子－」『沖縄県立博物館紀要』第19号 沖縄県立博物館 1993年3月
- 「子どもをとりまく社会史」『子どもの世界—沖縄本島地区編—』沖縄県立博物館 1993年3月

大城 學

- 「祭りの心」『大塚勝久写真集 うつぐみの心竹富島』所収、葦書房、1992年7月
- 「玉城朝薫と芸能」『がじゅまる通信』No.1 所収、榕樹社、1992年11月
- 「フェーヌシマ考」『沖縄文化』第76号（27巻2号）所収、沖縄文化協会、1993年6月
- 「川平の節祭—マユンガナシイを中心に」『祭りのディスクール』所収、多賀出版、1993年1月
- 「島の学芸」『江戸時代人づくり風土記 47 沖縄県』所収、農文社、1993年3月
- 「イザイホーの儀礼と歌謡」『沖縄・久高島のイザイホー』所収、砂子屋書房、1993年3月
- 「組踊の伝承に関する現状と課題」「長者の大主」『平成四年度沖縄振興開発計画推進調査報告書』所収、文化庁文化財保護部伝統文化課、1993年3月
- 「三線の製作工程」「三線関係書誌一覧」「三線略年表」「沖縄の三線」（沖縄県文化財調査報

告書第110集) 所収、沖縄県教育委員会、1993年3月

嵩原 建二

- 「波照間の鳥類と哺乳類」 沖縄県立博物館紀要第19号、沖縄県立博物館 1993年3月31日
- 「近年沖縄島で観察された迷鳥」 博友第7号 沖縄県立博物館友の会 1993年3月31日
- 「沖縄島北部地域(国頭村・大宜味村・東村)の鳥類」特殊鳥類等生息環境調査報告書 沖縄県環境保健部自然保護課 1993年3月31日
- 「暮らしをささえる家畜たち」 江戸時代「人づくり風土記」沖縄 農文協 1993年1月25日
- 「自然物を使ってあそぶ」「子どもの世界—沖縄本島地区編」沖縄県立博物館 1993年3月
- ヤンバルクイナ、*Rallus Okinawae* の繁殖に関する若干の知見 沖縄県文化課紀要 第9号 沖縄県教育委員会 1993年3月31日

與那嶺一子

- 「子どもの衣裳」『子どもの世界—沖縄本島地区』沖縄県立博物館1993年3月

3 講演等

大城 将保

- 外艦渡来と琉球の外交方針 1992年10月9日
依頼機関：沖縄市立中央公民館
備考：市民大学講座
- 大交易時代と泡盛 1992年11月1日
依頼機関：沖縄県工業連合会
- 牧志朝忠とその時代 1993年3月5日
依頼機関：沖縄衛生士学校

當眞 嗣一

- 「沖縄のグスクについて」1992年4月11日
依頼機関：知念村教育委員会
- 「グスク巡検」1992年8月2日
依頼機関：具志川市教育委員会
- 「南西諸島の考古学」1992年7月10日
依頼機関：岡山大学文学部
- 「首里城のはなし」1992年9月29日
依頼機関：南風原町教育委員会
- 「首里城の発掘と復元について」1992年8月26日
依頼機関：沖縄県中学校社会科教育研究会
- 「琉球の歴史について」1992年11月14日
依頼機関：西原町教育委員会
- 「琉球王国について」1992年10月29日
依頼機関：南風原町字津嘉山老人クラブ
- 「琉球の歴史と首里城」1992年12月9日
依頼機関：糸満市高齢者リーダー学級

- 「中城城跡について」1992年12月17日
依頼機関：中城村議会
- 「大交易時代の八重山」1992年1月30日
依頼機関：石垣市立八重山博物館
- 「古都首里に文化・歴史を学ぶ」1993年2月10日
依頼機関：中頭地区社会教育指導員連絡協議会
- 「中城城跡の保存と活用」1993年3月11日
依頼機関：北中城村議会
- 「グスクを訪ね郷土の文化について学ぶ」1992年3月21日
依頼機関：西原町教育委員会

上門 清春

- 企画展「沖縄のチヨウ」展示
期 間：1992年7月23日～27日
依頼機関：沖縄市郷土博物館
- 平成4年度県立高等学校初任者研修会
テーマ：学級通信とホームルーム経営
期 間：1992年7月28日～29日
依頼機関：沖縄県教育委員会
- 平成4年度第2回県立学校教務主任研修会
テーマ：地域環境問題
期 間：1992年8月18日
依頼機関：県立教育センター
- 平成4年度沖縄市高齢者学級
テーマ：博物館の展示室を見学しながら沖の歴史・自然史などを学習する。
期 間：1992年11月から12月
依頼機関：沖縄市中央公民館
- 平成4年度長寿学園おきなわ「島尻学園」
テーマ：「科学」沖縄の自然・土の中の生きものたち
期 日：1992年11月5日・12月11日
依頼機関：教育庁島尻教育事務所
- 第32回沖縄県児童生徒科学賞作品展示会審査
期 間：1992年11月8日
依頼機関：沖縄県高等学校文化連盟科学部
- ふれあい青少年ふるさと発見ツアーリ
期 間：1992年11月14日～15日
依頼機関：県生活福祉部
- 第15回沖縄青少年科学作品展審査員
期 間：1993年1月26日
依頼機関：沖縄県教育委員会

萩尾 俊章

○「沖縄の歴史」(講演)

期　　日：1992年9月10日

依頼機関：人事院沖縄事務所

備　　考：第20回沖縄地区中堅係員研修会

○「首里城と大交易の時代」(講演)

期　　日：1992年9月22日

依頼機関：沖縄県農協電算センター

備　　考：研修会

○「歴史展示室解説会」

期　　日：1992年9月26日

依頼機関：沖縄県立博物館友の会

備　　考：展示解説会

○「首里城の歴史」(講演)

期　　日：1992年10月20日

依頼機関：（財）海洋博覧会記念公園管理財団

備　　考：新任職員研修会

○「琉球王国の歴史－琉球の風を楽しくみるために－」(講演)

期　　日：1992年10月28日

依頼機関：西原町教育委員会

備　　考：西原町婦人学級（やまびこ学級）

○「首里城と大交易の時代」(講演)

期　　日：1992年10月30日

依頼機関：中部病院共済組合

備　　考：文化講演会

○「琉球の歴史」(講演)

期　　日：1992年11月11日

依頼機関：沖縄市商工会議所

備　　考：研修セミナー

○「歴史の道を歩く」(史跡めぐり)

期　　日：1993年1月9日

依頼機関：城西小学校P.T.A

○「琉球王国の歴史」(講演)

期　　日：1993年1月23日

依頼機関：石垣市立八重山博物館

備　　考：子ども博物館

○「沖縄の歴史と文化」(講演)

期　　日：1993年1月27日

依頼機関：生涯学習振興課

備　　考：公民館・社会教育主事研修会

○「沖縄の歴史」(講演)

期　　日：1993年1月29日

依頼機関：生涯学習振興課

備　　考：教育ボランティア養成講座

○「首里城と大交易時代の歴史的背景」(講演)

期　　日：1993年3月18日

依頼機関：JA信連沖縄

備　　考：研修会

大城　學

○「郷土芸能の解説」

期　　間：1992年5月21日

依頼機関：浦添市教育委員会

備　　考：第17回（平成4年度）全国民俗芸能保存振興市町村連盟大会

○「八重山の祭り」

期　　間：1992年7月11日

依頼機関：石垣市立八重山博物館

備　　考：こども博物館教室

○「心に響く旋律・民謡へのいざない」『島々の民謡』

期　　間：1992年9月10日・17日

依頼機関：那覇市若狭公民館

備　　考：市民講座「琉球民謡講座」

○「琉球王国と文化」

期　　間：1992年9月18日

依頼機関：沖縄県個人タクシー事業協同組合

備　　考：タクシー乗務員、観光バスガイド対象

○「第12回古典芸能鑑賞会運営委員」

期　　間：1992年10月～1993年1月

依頼機関：沖縄市教育委員会

備　　考：芸能鑑賞会の企画と公演の解説

○「文化庁芸術祭主催公演の制作協力」

期　　間：1992年8月～10月

依頼機関：（株）スズキ・アート・エージェンシー

備　　考：平成4年度（第47回）文化庁芸術祭主催公演「琉球舞踊の現在－琉球舞踊新銳展」

「島や歌遊び」の制作協力

○「アジア民族芸能祭企画専門委員」

期　　間：1992年10月

依頼機関：石垣市

備　　考：芸能祭の企画

○シンポジウム「沖縄の三線－現状と課題」のパネラー

期　　間：1992年11月14日

依頼機関：沖縄市郷土博物館

備 考：第17回企画展「沖縄の三線－現状と課題」の関連催し物

○「沖縄の民俗と女性」

期 間：1992年11月17日

依頼機関：那覇商工会議所

備 考：商工会議所の補助員、簿記専任職員対象

○「教育ボランティア養成講座」

期 間：1993年1月12日

依頼機関：沖縄県教育庁生涯学習振興課

備 考：高齢者・一般成人対象

○シンポジウム「沖縄の新たな可能性を求めて」のパネラー

期 間：1993年1月30日

依頼機関：沖縄国際大学南島文化研究所

備 考：沖縄国際大学南島文化研究所設立15周年記念シンポジウム・第14回南島文化市民講座

○「博物館活動と民俗芸能」

期 間：1993年3月13日

依頼機関：今帰仁村教育委員会

備 考：村民対象

嵩原 建二

○環境教育推進モデル校野鳥観察講師

期 日：平成4年8月28日

依頼機関：浦添小学校

○環境教育推進モデル校野鳥観察講師

期 日：平成4年9月22日

依頼機関：浦添小学校

○野鳥講演及び野鳥観察会講師

期 日：平成4年10月11日

依頼機関：北谷町中央公民館

○野鳥講演及び野鳥観察会講師

期 日：平成4年10月25日

依頼機関：読谷村中央公民館

○野鳥講演及び野鳥観察会

期 日：平成4年11月22日

依頼機関：北谷町中央公民館

○教育ボランティア養成講座講師

期 日：平成4年12月8日

依頼機関：沖縄県教育庁生涯学習振興課

○野鳥講演及び野鳥観察会講師

期 日：平成5年2月20日

依頼機関：玉城少年自然の家

○第32回 沖縄県児童生徒科学作品展示会審査

期　　日：1992年11月8日

依頼機関：沖縄県高等学校文化連盟科学部

○野鳥観察会講師

期　　日：1992年10月31日

依頼機関：沖縄県立博物館友の会

○野鳥観察会講師

期　　日：1993年3月27日

依頼機関：沖縄県立博物館友の会

○個　展（写真展）

タイトル：「ヤンバルの生きもの」

期　　日：1993年1月16日～2月25日

場　　所：名護市中央公民館（市民フォト・サロン）

4 国外学芸員研修報告（米国）

前田真之（指導主事）

1 研修経過

ワシントン、D.C.にあるスミソニアン研究所で、6か月間にわたる学芸員研修の機会を与えて下さったことにたいし厚く感謝申し上げます。

研修の方法としては、①スミソニアン研究所管轄の博物館で直に研修を受ける方法と、②スミソニアン研究所と協同提携を取るジョージ・ワシントン大学の博物館コースを選択し、その中でスミソニアン管轄の博物館での実習も受けるという二つの方法がありました。前者を選ぶことにしました。

2 アメリカ国立歴史博物館における研修

アメリカ国立歴史博物館における研修は、原則として大学で博物館学芸員のコースを履修してきた人達が前提となっており、しかもその研修は博物館活動の一つの分野に限定して行われています（たとえば展示なら、展示の研修のみ）。

今回は、沖縄県で新館建設の事業が始まっていること、中規模の博物館では一つのことだけではなく博物館活動全般にたいする理解も必要であるということから、できるだけ多くの部署で研修が受けられることを希望しました。研修生担当のメアリー・ダイヤさんは、配置先の調整では大変お世話になりました。

研修場所は、①オフィス・オブ・レジストラー（コレクション登録事務所）、②コレクション・マネジメント・オフィス（コレクション管理事務所）、③コンサーベイション室（保存および修復室）、④教育課⑤アメリカンフェスティバルが主なところであります。

① オフィス・オブ・レジストラー：博物館にコレクションが入ってくるのには、二つのことが考えられる。ひとつは、キュ레이タが博物館の活動目的の範囲内で展示にむけて収集しているコレクションが入って来る場合、二つ目は寄贈者がみずからの意思で送って来る場合である。

このようにして入ってきたコレクションをどう取り扱うのかが、レジストラーの仕事である。キュ레이ターの収集してきたコレクションの場合は、まず展示に必要なコレクション（アクセッション）なのか補助的なコレクション（ノンアクセッション）なのか振り分けたあと、博物館のナンバリング・システムに基づいてコレクションの記録をコンピュータでインプットする。

そのあとは、そのコレクションを必要とする部署に連絡し、受けとりにきたその部署でコレクションの管理を行うことになっている。コレクションの基本台帳はレジストラーの方と担当部署の両方に置かれるが、コンピュータの故障した時のことを考えて、必ずファイルに記録することになっている。

レジストラーの仕事の中で一番やっかいな問題は、寄贈者が自主的に送ってきたコレクションをどう処理するかである。不必要的ものは、キュ레이ターと相談のうえ送り返すが、必要なコレクションの場合には法律的なトラブルを避けるため、スミソニアン側が用意した書式に基づき、寄贈者による条件設定を認めない形で受理される。

この部署では、コレクションを貸し出すときの梱包や発送（シッピング）の手ほどきも受

ける。この仕事で一番大切なことは、いつでもコレクションのことに関し、ビジターに説明可能な状態にあること（アカウンタビリティ）、もう一つはビジターがコレクションの情報を必要とするとき、いつでも接近可能な状態にあること（アクセシビリティ）である。

② コレクション・マネジメントオフィス：コレクション・マネジメントオフィスの主な仕事は、展示室のコレクションの管理、キュ레이ターのいる部署に保管されているコレクションの管理、収蔵庫の管理、博物館棟の改造計画実施等である。温度や湿度、ライトのチェックの他に、収納棚の選定、倉庫の設計など、仕事は多岐にわたるが、現在の建物を前提にした5か年改造計画（マスター・プラン）のレポートは、一番の示唆を与えてくれた。このレポートで改造の時のコレクションの保管や移動、他の展示への影響を具体的にどのように避けるかなど今後役に立つものが多く含まれている。

③ コンサーベイション室：アメリカ国立歴史博物館のコンサーベイション室は、主に四つの部屋に分かれている。一つは文書修復の部屋、二つ目は衣装の修復、三つ目は陶磁器の修復、四つ目は機械の修復の部屋である。

博物館が現在所有するコレクションのうち修復を必要とするものすべてを受け入れているわけではないようである。コンサーベイション室のほうには内規があり優先順位がある。常設展や特別展の展示に欠かせないコレクションや、キュ레이ターの意見によると将来的に展示の可能性があるものなどが、キュ레이ターとの話し合いをもとに修復の作業に回されてくる。

ここでは話を聞くだけで、具体的な作業の機会がなかったのは残念であった。

④ 教育課：パブリック・プログラムという部署にある教育課は、今回の研修の中で一番示唆するものが多かった。

アメリカでは、ボストン美術館のギルマンとニューアーク美術館のダナとの論争に代表されるように、美術館の役割は展示に重点が置かれるのか、それとも展示物の内容に関しビジターにわかるようにつとめる教育的機能に重点がおかれるのか議論が行われた。結論として二者択一はおこなわれなかったものの、教育的機能を無視することはもはやできない状態に来ている。

その好例がニューヨークのメトロポリタン美術館である。膨大な費用を使ってヨーロッパから多くの作品を集めて来たにもかかわらず、地域の住民からは何ら地域に貢献しない博物館と評されベトナム戦争の頃には“多くの作品を売り、その費用で戦争犠牲者を救え”とバリケード封鎖にしている。

このような経過の中で、地域と関わりのない、あるいは教育的機能を考えない観るだけの展示では、もはやその社会での機能を果たし得なくなっているのがアメリカの現状である。そして過去10年近くの間にアメリカで急速に発展してきたのがマテリアル・スタディーとインターパリティーションである。前者はコレクションの形態、内容に関する研究であるが、後者はこのコレクションを理解させていくために、どのような発問やどのような文章のパネルを考え、ビジターの認識を深めていくのかが研究の中心となる。アメリカ国立歴史博物館の教育課は、歴史体験学習室に責任を持つが、その部屋にあるパンフレットは、このマテリアル・スタディーとインターパリティーションを具体化したものになっていて、この資料はこれから大いに活用可能である。アメリカでは子供たちに読めないようなラベルは、エデュケーターと呼ばれる教育のスペシャリストにより取り除かれている。

⑤ アメリカン・フェスティバル：この部署は、パブリック・プログラム課の中に設けられている。アメリカでは観る展示の時代は終り、展示に関し五感に訴えることに重点が置かれるようになってきている。この部署は展示に関するイベントやコンサートなどの企画をとおして教育的普及に責任を持つ。現在この部署の一番の大仕事は、来年NHKが千葉の幕張メッセで計画するアメリカン・フェスティバルに博物館のコレクションと多くのミュージシャンを送り出すことである。

コレクションの展示に関しては、日本の若者がアメリカについて何を知りたいのか、キュ레이ターが日本情報収集につとめている。この部署での研修は、日本での情報を集めて英文化し、キュ레이ターの展示計画に寄与することであった。

このほかにアメリカ国立歴史博物館とアメリカン・フェスティバルを企画するメディア、インターナショナル、コーポレーションとの契約交渉の席に臨席させていただいた。契約案の中には国外からコレクションを借りる時の事項が詳細に含まれており、将来的にはこの資料は大いに参考になるものと思われる。

⑥ エキシビション：この部署では残念なことに研修の機会が得られなかった。そのため来年オープン予定の常設展“サイエンス・イン・アメリカンライフ”的展示デザイナーであるアン・ロッシリさんに展示プロセスの研修を個人的に指導していただいた。足りないところはスライドに撮り、活用できるようにつとめている。

3 これからの課題：学んだことから何を生かしていくのか。

沖縄の博物館での実務経験もないままスミソニアン研究所に来たため、自分の学んできたものが現場の実情を踏まえた的を得たものになっているか心もとない点もあります。したがってこのような前提条件のもとでご理解いただければ幸かと存じます。

- ① 博物館の組織構成の仕方：現在の職員数をもとにして、活動がスムーズにいくには、どんな構成の仕方があるのか。
- ② コレクションの登録：寄贈者との法律上のトラブルを避けるためにどのような手続きの処理が必要か。コレクションのコンピュータによるナンバリングの方法はどのように進めるか。
- ③ コレクションの管理：アメリカ歴史博物館のマスター・プランでは、博物館改造時どのように作業を進めているのか。新館建設に参考になるものを見つける。
- ④ 教育普及：ボランティアのガイドをどのように取り入れていくのか。歴史体験学習室のようなところで、子どもたちが自分で学習が深められるようにするには、どのようなコレクションの分析をもとに、どのようなパンフレットやパネルを作っていくらよいのか。
- ⑤ 情報の提供：アメリカで集めてきた資料を整理し、アメリカの情報を県内の博物館職員が共有できるようにする。

VI 収蔵資料

1 収蔵資料現在高

平成5年3月31日現在

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	600	425	6	2	1,033
	動物	987	18,130	470	13	19,600
	植物	15	850	0	0	865
美術工芸	絵画	69	517	5	0	591
	書跡	504	856	48	3	1,411
	彫刻	5	112	132	0	249
	陶磁器	442	3,160	249	492	4,343
	漆器	239	199	162	0	600
	染織	1,072	1,450	10	0	2,532
歴史資料	502	4,721	334	74	5,631	5,631
考古資料	8	1,572	975	15	2,570	2,570
民俗資料	2,370	753	580	78	3,781	3,781
総計	6,813	32,745	2,971	677	43,206	43,206

2 平成4年度(1992)新収蔵資料

平成4年4月1日～平成5年3月31日

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質				0	
	動物	58	15	2	75	
	植物				0	
美術工芸	絵画		1	4	5	
	書跡		1	7	8	
	彫刻				0	
	陶磁器	15	28		43	
	漆器	10	4		14	
	染織	3	19		22	
歴史資料	59	1,250			1,309	1,309
考古資料		12			12	12
民俗資料		22	2	1	25	25
総計	145	1,352	15	1	1,531	1,531

3 平成4年度(1992)新収蔵資料目録

寄贈の部

(平成4年4月1日～平成5年3月31日)

分類		品名	数量	寄贈者名	住所
自然	動物	ベニアジサシ他 ウグイス	14 1	沖縄子どもの国 大城 亀信	沖縄市
美術工芸	絵画	水彩画帖	1	伊福 盛寿	ハワイ
	書跡	程順則の書「聖諭」	1	伊福 盛寿	ハワイ
	漆器	乾漆茶壺他	5	伊福 盛寿	ハワイ
	陶磁器	宮古式土器	1	藤崎 真	那覇市
	"	飴釉コバルト絵花文碗他	27	伊福 盛寿	ハワイ
	染織	羊毛青地花織着物他	4	与那嶺仁助	南風原町
	"	絹灰色地絹縞に絣着物他	2	久田 民子	那覇市
	"	金茶地龍瑞雲模様繡珍衣裳	1	大嶽 チヨ	東京都
	"	麻白地熨斗に竹梅文様胴衣	1	金城 スミ	那覇市
	"	木綿紺地絣着物	4	屋嘉比トミ子	那覇市
	"	麻浅地松竹梅散らし文様衣裳他	4	天久 和子	熊本県
	"	芭蕉着物	3	伊福 盛寿	ハワイ
歴史資料	琉球切手集		1	稻嶺 盛保	宜野湾市
	"	白川姓系図家譜	1	平良 貞子	那覇市
	"	旧中城御殿礎石	30	座波 清子	那覇市
	"	東姓家譜支流	1	稻福 政吉	具志川市
	"	琉球切手ファイル(アルバム)他	1216	伊福 盛寿	ハワイ
	"	漂到琉球国記(レプリカ)	1	宮内庁書陵部	東京都
考古資料	石斧		1	保仙 純剛	奈良県
	"	シャコ貝製貝斧	1	下地 恒昌	那覇市
	"	港川人想定全身像複製	1	(株)旺文社	東京都
	"	縄文土器(小壺)他	9	伊福 盛寿	ハワイ
民俗資料	水甕		1	久高 友一	那覇市
	"	風弾	2	亀島 章哲	埼玉県
	"	厨子甕の蓋	1	岸本 一義	那覇市
	"	笊	11	平良 敏子	大宜味村
	"	魚網(苧麻製)	1	大城 吉春	那覇市
	"	三線棹材	2	又吉 真也	那覇市
	"	鱗削り器	1	西平 守勝	浦添市
	"	フージョー(煙草入れ)	1	伊福 盛寿	ハワイ
	"	琴(古箏「楓」)	1	屋部 公子	那覇市

移管の部

分類	品名	数量	移管元	住所
民俗資料	厨子甕(古我地焼)	1	県議会事務	那覇市

収集の部

分類		品名	数量
自然史	動物	タカブシギ	1
	"	スズメ	1
美術工芸	絵画	風俗図・王子様図他	4
	書跡	趙樸初書「沖縄県立博物館」他	2
	"	扁額「海戯天遊」他	5
民俗資料		子ども着(女子用/男子用)	2

購入の部

分類		品名	数量
自然	動物	ギンガメアジ(レプリカ)他	58
美術	陶磁器	ルソン南蛮壺	1
	"	泡盛壺	14
工芸	漆器	朱漆樓閣山水人物沈金盆	10
	染織	辻が花染裂地他	3
歴史資料		古錢	2
	"	泡盛文書	4
	"	『島津琉球軍精記』他	9
	"	『亞墨利加國條約並稅則』他	5
	"	地図	39

4 所蔵国県指定文化財

国指定文化財（重要文化財）

平成4年3月31日現在

種別	名 称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍	おもろさうし 混効験集	22冊 2冊	昭48. 6. 6 "	県立博物館 "	沖縄県 "
工芸	銅鐘（旧首里城正殿鐘） 梵鐘（旧円覚寺殿前鐘） 梵鐘（旧円覚寺殿中鐘） 梵鐘（旧円覚寺樓鐘）	1口 3口	昭53. 6. 15 "	県立博物館 "	沖縄県 "

県指定文化財（有形文化財）

平成4年3月31日現在

VII 刊行物

刊 行 物 名	種 類	部 数	規 格 (頁数)	内 容
沖縄県立博物館紀要第19号	定 期	1,000	B5(87)	学芸員の調査研究報告書
沖縄県立博物館年報 No.25	定 期	8,00	B5(71)	前年度の博物館活動報告
博物館だより No.33	定 期	1,500	B5(4)	博物館の活動紹介
博物館利用の手引き	定 期	3,000	B5(28)	博物館学習のための手引き
特別展「沖縄の貝類～海からのおくりもの～」図録	不定期	1,000	B5(68)	貝類の特徴・沖縄の貝・貝と人との関わりなど
特別展「琉球王国～大交易時代とグスク～」図録	不定期	1,000	B5(201)	黒潮文化・貝の道・大交易時代とグスクなど
新収蔵品展図録	不定期	1,000	B5(6)	平成3年度の新収蔵品紹介
「子どもの世界 －沖縄本島地区編」	不定期	1,000	B5(144)	こどもをとりまく社会史 こどもの遊び・こどもの衣裳・わらべうたなど
「博物館においてよ ー博物館ワークシート」	不定期	10,000	B5(105)	歴史・自然・民俗・美術工芸のワークシート
沖縄県立博物館ポスター	定 期	1,000		平成4年度年間行事案内
特別展「沖縄の貝類」ポスター	不定期	1,000		特別展案内
特別展「琉球王国」ポスター	不定期	1,000		特別展案内
仲嶺俊子貝類コレクション目録	不定期	500	B5(296)	寄贈コレクションの目録 (5000種11288点)
企画展「謝花雲石」図録	不定期	500	B5(52)	企画展案内
書を初めて習う人のために	不定期	500	A3(37)	雲石自筆の手本書

VIII その他の活動

1 資料貸出

①自然史／考古／歴史／美術工芸／民俗 105件 144点

期間：平成4年4月27日～平成4年5月19日 名称：琉球王朝の美

主催：沖縄県／（社）沖縄県物産振興会 会場：京王デパート新宿店

②美術工芸：島常賀作獅子 8点

期間：平成4年4月27日～5月5日

主催：沖縄タイムス社

名称：島常賀作品展・シーサーづくり90年の歩み

会場：沖縄タイムスホール

③美術工芸：琉球切手原画 31点

期間：平成4年5月12日～5月27日

主催：沖縄郵政管理事務所

名称：郵政記念展

会場：ポスタルプラザくもじ

④自然史資料：蝶関係資料 143件

期間：平成4年7月13日～9月11日

主催：沖縄市立郷土博物館

名称：沖縄のチョウ展

会場：沖縄市立郷土博物館

⑤美術工芸：彫刻他 7点

期間：平成4年8月3日～8月24日

主催：読売新聞社大阪本社

名称：最後の戦場沖縄第十六回戦争展

会場：大阪大丸心斎橋店

⑥歴史：鎌倉芳太郎・坂本万七写真パネル 46点

期間：平成4年9月18日～10月5日

主催：那覇市

名称：沖縄戦と首里城—地下にねむる第32軍司令部壕—

会場：那覇市民ギャラリー

⑦歴史/美術工芸：鄭嘉訓書他 17点

期間：平成4年9月28日～12月7日

主催：（財）日本書道美術館

名称：沖縄復帰20周年記念「琉歌—南のうたの心」

会場：（財）日本書道美術館

⑧美術工芸：琉球切手原画 10点

期間：平成4年11月18日～11月28日

主催：沖縄郵趣連盟

名称：全琉切手展

会場：那覇東郵便局

⑨考古／歴史／美術工芸／民俗：首里那覇港図他 81点

期間：平成4年12月21日～平成5年2月20日 名称：琉球王国一大交易時代と八重山

主催：石垣市立八重山博物館

会場：石垣市立八重山博物館

⑩美術工芸：紅型資料 5点

期間：平成 5 年 1 月 12 日～2 月 5 日 名称：花咲く布 琉球紅型の輝き 城間栄喜遺作展
主催：（財）工芸学会／麻布美術館／城間紅型研究所 会場：麻布美術館

⑪美術工芸：纂書他 27 点

期間：平成 5 年 3 月 19 日～4 月 13 日 名称：謝花雲石展
主催：南風原文化センター 会場：南風原文化センター

⑫自然史：蝶関係資料 143 件

期間：平成 5 年 2 月 2 日～2 月 28 日 名称：沖縄のチヨウ
主催：平良市総合博物館 会場：平良市総合博物館

⑬歴史／美術工芸：沖縄民政府表示板他 7 点

期間：平成 4 年 7 月 17 日～9 月 8 日 名称：終戦後の石川
主催：石川市立歴史民俗資料館 会場：石川市立歴史民俗資料館

⑭写真パネル／坂本万七撮影写真パネル 51 点

期間：平成 5 年 3 月 29 日～4 月 5 日（月） 名称：『戦前・戦後沖縄の風物時』写真展
主催：（株）リウボウインダストリー 会場：リウボウ

2 燻蒸処理

当博物館では資料保存のため、毎年害虫駆除を目的とした燻蒸をおこなっている。平成 4 年度は、9 月 4 日（金）から 9 月 8 日（火）まで、展示室を含めた大がかりな燻蒸を実施した。1 階収蔵庫・地下収蔵庫・漆器収蔵庫の他に、各展示室と首里城正殿模型・篇額・湧田窯プレハブをメチルブロマイドによって燻蒸し、その他事務室・講堂はスミチオン酸煙霧によって害虫駆除をおこなった。展示替えは特別展「沖縄の貝類」の撤収作業と平行して、事前におこなわれた。

3 沖縄県立博物館協議会

沖縄県立博物館協議会

第 1 回

日 時 平成 4 年 9 月 25 日（金）14：00～16：00

場 所 沖縄県立博物館

1. 委嘱状交付式

2. 会議事項

ア. 尚家継承琉球王朝文化遺産展について

イ. 沖縄県立博物館の管理に関する規則の一部改正について

ウ. 石牆整備工事について

エ. その他

第2回

日 時. 平成5年3月23日(火) 11:00~12:00

場 所. 郵便貯金会館

1. 会議事項

- ア. 平成5年度博物館事業について
- イ. 尚家継承琉球王朝文化遺産展の報告について
- ウ. その他

沖縄県立博物館協議会委員

(平成4年6月1日~平成6年5月31日)

	氏名	所 属	職 名	住 所	電 話
学 識	翁長 自修	琉球大学教育学部 (美術工芸)	教 授	(職) 〒903-01 西原町千原1 (自) 〒901-22 宜野湾市大謝名787	098-895-2221 098-897-5510
	新城 和治	琉球大学教育学部 (自然)	助 教 授	(職) 〒903-01 西原町千原1 (自) 〒903 那覇市首里久場川町2-8-7	098-895-2221 098-884-8865
経 験 者	金城 正篤	琉球大学法文学部 (歴史)	教 授	(職) 〒903-01 西原町千原1 (自) 〒903 那覇市首里石嶺町3-293-6	098-895-2221 098-887-1924
	比嘉 政夫	琉球大学法文学部 (民俗)	教 授	(職) 〒903-01 西原町千原1 (自) 〒900 那覇市若狭3-41-6	098-895-2221 098-868-2965
学 校 教 育 関 係 者	嵩元 政秀	興南高等学校 (考古)	校 長	(職) 〒903 那覇市古島100-2 (自) 〒903 那覇市首里鳥堀町5-22	098-884-3292 098-887-6524
	前山田 任	城西小学校	校 長	(職) 〒903 那覇市首里真和志町1-5 (自) 〒902 那覇市国場851-2	098-884-3542 098-855-2519
学 校 教 育 関 係 者	仲宗根忠八	中部工業高等学校	校 長	(職) 〒904 沖縄市越來3-17-1 (自) 〒904 沖縄市胡屋3-7-9	098-937-5451 098-932-3662
	山内 晴子	沖縄県婦人連合会	理 事	(職) 〒902 那覇市大道172 (自) 〒905-04 今帰仁村字仲尾次314	098-884-5333 098-056-2828
社会 教 育 関 係 者	玉城 松寛	沖縄県PTA連合会	会 長	(職) 〒900 那覇市曙2-26-15 (自) 〒904-01 北谷町桑江618-29	098-867-3582 098-936-6750
	新城 紀秀	沖縄県社会教育委員	議 長	(職) 〒 (自) 〒904-11 石川市石川2666-2	
					098-964-2415

4 沖縄県博物館協会

平成4年度の総会及び研修会は、5月22日（金）に沖縄県立博物館講堂で開催された。総会が開催される前に沖博協の活動に対し、功績のあった大城宗精氏（元沖縄県立博物館館長）に感謝状と記念品が贈呈された。総会は25の館（園）及び個人会員の参加があり、総数76名。総会では平成3年度の事業報告と予算・決算承認のあと、平成4年度の事業計画と予算案の審議が行われた。

午後からは「生涯学習時代に対応した博物館活動の在り方」というテーマを掲げた、フォーラムが開催された。はじめに上門清春氏（沖縄県立博物館指導主事）による「沖縄県立博物館における博物館学習の取り組み」いう基調報告のあと、フォーラムに移った。6名のコメントターのそれぞれの活動や取り組みが報告されたあと、フロアからも活発な質疑がかわされ、社会教育施設としての生涯教育時代に対応した博物館の在り方や方向性を考える絶好の機会になった。

秋の研修会は9月9日から10日までの2日間、石垣島の石垣市立図書館で開催された。この日に設定した理由は、「八重山トゥバーマ大会」がこの日にあり、八重山の民俗文化を知る研修会にしようとの試みからだった。午後からはじまった研修会には4名の講師によって、それぞれ専門の立場から「トゥバーマ」の民俗学的な考察と講演が行われた。講演終了後、全員近くの公園で催される「八重山トゥバーマ大会」に参加し、夜空に響く、「トゥバーマ」にききいった。

翌日10日は、バスで「八重山の文化財と自然めぐり」を行い、「唐人墓」や川平湾、ネパル御嶽の亜熱帯海岸林など八重山の自然や文化財を満喫した一日だった。



5 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加協力し、さらに会員の教養を高めることと相互の親睦をはかる」ことを目的として発足した。その間会員も増加し、年々充実した活動を行ってきてる。平成4年度の会員名簿に登録されている会員は、次のとおりとなっている。

会員 558名、賛助会員団体 3団体・個人会員 1名、準会員 11名

平成4年5月17日には平成4年度の総会が本館講堂で開催され、予算及び事業計画等が審議・決定されて平成4年度の活動が開始した。

事業内容と活動の状況は次のとおりである。

1. 事業

(1) 南風原文化センター見学会

6月20日（土）、南風原文化センター職員の平良次子氏の解説により見学会を実施した。参加者14人

(2) 海外研修旅行（パリ島）

6月28日（日）～7月2日（木）、研修旅行を実施した。

参加者33人

(3) 離島めぐり（渡名喜島）

7月11日（土）～12日（日）の予定であったが台風のため中止。

(4) 展示室解説会

7月26日（土）、萩尾俊章学芸員を講師に第1室（歴史関係）の解説会を実施した。

参加者31人

(5) 県外研修旅行（大隅半島、種子島）

9月12日（土）～15日（火）、研修旅行を実施した。参加者25人

(6) 山原の自然と文化財めぐり

10月31日（土）～11月1日（日）、自然と文化財めぐりを実施した。参加者31人

(7) 首里城周辺文化財めぐり

11月21日（土）、宮里朝光氏を講師に崎山・赤田町の史跡めぐりを実施した。参加者44人

(8) 首里城公園見学

12月5日（土）、真栄平房敬氏を講師に首里城を中心に見学会を実施した。参加者84人（内子供3人）

(9) 文化キャラバン隊

1月23日（土）～24日（日）、沖縄県立博物館が波照間島で実施した移動博の手伝いをした。参加者5人

(10) 会員発表会

3月20日（土）、第5回会員発表会を実施した。参加者28人

「南西諸島におけるウリミバエ・ミカシコミバエについて」……………前田 朝達

「友の会へのおもい」……………佐次田静子

「中国・広西チワン族自治区の自然と有毒動物」……………新城 安哲

(11) 友の会通信の作り方学習会

3月26日（金）、上門清春氏を講師に学習会を実施した。参加者6人

(12) バード・ウォッティング

3月27日（土）、嵩原建二氏を講師に漫湖にて探鳥会を実施した。参加者26人

2. 会員への情報提供事業

- 博物館事業及び催しものの案内状発送
- 友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送
- 博物館発行印刷物の復刻販売サービス

3. 会誌（博友）・会報（赤い瓦）の発行

4. ミュウジアムショップの経営

出版物・テレホンカード・絵はがき・委託図書・フィルム・飲み物・「万国津梁の鐘」ミニチュアなどの販売サービス

5. その他

- 総会及び懇親会（1992年5月17日） 参加者：68人
- 新年会 （1993年1月13日） 参加者：75人

6 博物館実習

学芸員に関する履修科目として博物館実習3単位があるが、本館では例年10人前後の実習生を受け入れてきた。本年度は下記の7名の実習生にたいして全職員が各分野を分担して実地指導を行った。

1. 実習生

島袋妙子（鹿児島女子大学）、安座間さや子（同）、島袋恵子（同）、山里真由美（大手前女子大学）、大城その子（四国女子大学）、照屋郁子（和洋女子大学）、仲村美奈子（群馬県立女子大学）

2. 期間

平成4年7月20日（月）～7月29日（水）

3. 実習科目と担当者

- (1) 博物館実習について（大城学芸課長）
- (2) 博物館の例規・組織・運営等について（西平副館長）
- (3) 資料受入・分類・登録・原簿記載等実習（与那嶺学芸員）
- (4) 自然史資料取扱実習（嵩原学芸員）
- (5) 美術工芸取扱実習（瑞慶山学芸員）
- (6) 美術工芸「染織」取扱実習（与那嶺学芸員）
- (7) 歴史資料取扱実習（萩尾学芸員）
- (8) 教育普及活動実習①（上門学芸員）
- (9) 考古資料取扱実習（当真教育普及課長）
- (10) 民俗資料取扱実習（大城学芸員）
- (11) 教育普及活動実習②（当真教育普及課長）
- (12) 展示作業実習（与那嶺学芸員・瑞慶山学芸員）
- (13) 展示解説実習（上原解説員）
- (14) 博物館実習のまとめ（大城学芸課長）

7 沖縄県立博物館石牆整備工事

- (1) 本工事は、旧中城御殿の石牆をモデルとして実施した工事であり、現存する石牆を参考にすることともに遺構調査の成果及び「旧中城御殿関係資料」(沖縄県立博物館1992年3月発行)等を参考にし、往時の姿をイメージできるよう整備を実施した。
- (2) 工事場所 那覇市首里大中町1丁目1番地。
- (3) 工事期間 平成4年7月21日～平成4年10月24日。
- (4) 工事概要 石積総延長190m・使用材料 琉球石灰岩・石積工法 あいかた積み。

8 石牆整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

沖縄県立博物館の敷地は旧中城御殿（世子殿）である。したがって周知の埋蔵文化財地域であることから、石牆整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の必要性が生じ発掘を実施することになった。

文化財保護法第98条の2第1項の規定により、埋蔵文化財発掘調査の通知を博物第559号（平成4年3月11日付）で文化庁長官へ提出し、平成5年4月13日に発掘を開始、同年7月3日終了。発掘終了後は出土遺物の整理を実施した。

IX 新館建設事業

1. 新館建設事業の概要

当館の現施設は老朽化がすすみ、収蔵資料の増加とともに収蔵庫が狭隘になっている。現状では、国際化、情報化、生涯学習時代に対応した博物館活動を十分に展開することが困難になっている。県教育委員会では、平成2年度に新館建設検討委員会を設けて新館建設についての検討を委嘱、平成3年3月に「沖縄県立博物館基本構想」の報告を得た。

基本構想によれば、新館は那覇新都心地区に延床面積約18,000m²（地上2階、地下1階）の規模で、21世紀型の総合博物館として平成12年の開館をめざしている。

県教育委員会では、平成3年度から「新館建設事業」を重点施策に位置づけ、同年9月、新館建設委員会を発足させ、3年計画で「基本計画」の策定作業を推進中である。

2. 沖縄県立博物館新館建設委員会

平成4年度は建設委員会が設置されて2年目にあたるが、次年度（平成5年度）末に報告する「基本計画」の策定に資するため、前年度に引き続き県外先進館の視察・調査を実施するとともに、新たに小委員会を設置して「基本計画」の草案づくりの具体的な作業に着手した。

(1) 平成4年度第1回建設委員会

日時：平成5年2月24日（水）

場所：教育庁第1会議室

議題：委嘱状交付式及び第1回委員会

鈴木雅夫以下13名の委員に委嘱状を交付、鈴木雅夫会長、比嘉政夫副会長を互選。

小委員会委員に、鈴木雅夫、比嘉政夫、福島駿介、渡名喜明、池田栄史の4名を選任。基本計画の原案作成を委嘱した。

(2) 県外先進館の視察

日 時：平成5年3月16日～19日

視察先：仙台市立博物館、岩手県立博物館、平泉町立資料館ほか。

調査員：鈴木雅夫、比嘉政夫、福島駿介、玉那覇有紀、仲地哲夫、池田栄史、大城将保

(3) 第1回小委員会

日 時：3月8日（月）

場所：県立博物館

委員：鈴木雅夫、比嘉政夫、福島駿介

(4) 第2回小委員会

日 時：3月15日（月）

委員：鈴木雅夫、比嘉政夫、福島駿介、渡名喜明

(5) 第3回小委員会（東京調査）

日 時：3月25日～28日

調査先：乃村工芸社文化環境研究所、丹青社総合研究所、都立江戸東京博物館、千葉県立中央博物館ほか。

X 日誌抄

(平成4年4月～平成5年3月)

平成4年

- 4月17日 大田昌秀県知事来館
5月23日 伊是名村文化財保護審議会
泉文馳会長他6人来館
5月29日 九州地方教育委員会教育長会一行来館
6月9日 津留健二県教育長来館
6月17日 宇宙少年団黒田氏外2名
6月20日 メキシコ至宝展オープン式典、アベラルド・トゥレビーニョメキシコ臨時大使、尚弘子県副知事来館
6月28日 井伊直愛・文子御夫妻来館
7月18日 同志社大学森浩一教授来館
8月2日 群馬県生涯学習センター管理者千吉良覺氏他1人来館
8月15日 元国立科学博物館動物研究室長波部忠重氏、特別文化講座講師として来館
8月29日 中国档案館副館長泰国経氏他6名来館
10月1日 警察庁警備課永井和夫警視正来館
10月8日 自治省財政局長湯浅利夫氏来館
10月14日 德川美術館館長徳川義宣氏来館
10月15日 文化庁伝統文化課大滝主任調査官来館
10月23日 德川美術館山本学芸員来館
ニューヨーク美術館リー・スナイダー女史来館
11月7日 德川美術館館長徳川義宣氏、琉球大学教授比嘉政夫氏特別文化講演会で来館
11月8日 日教組中央執行副委員長渡久山長輝氏来館
11月11日 福島県議会事務局・議員一行来館
11月19日 沖縄開発庁振興第四課佐藤課長補佐他1名来館
12月3日 沖縄県議会議員宮良作氏来館
12月9日 文化庁安原啓氏来館
12月10日 京都国立博物館灰野氏来館
12月25日 東京国立博物館小笠原課長来館

平成5年

- 1月12日 沖縄開発庁長官北修二氏来館
12日 文部省教育助成局長井上孝美他2名来館
14日 筑紫野市教育委員7名来館
17日 熊本県伝統工芸館友の会一行来館（A班）
19日 文部省施設部技術課電気係長江崎一彦氏他2名来館
20日 会計検査院事務総長安部彪氏他1名来館
建設省会計課公共事業予算執行管理室長高田八郎氏来館
22日 大阪府岸和田市議会議員西田氏他4名来館

熊本県伝統工芸館友の会一行来館（B班）

- 23日 沖縄開発庁総務局長永山氏来館
26日 沖縄開発庁事務次官水谷氏来館
　　〃 振興第四課課長佐藤氏来館
27日 自治省川村課長補佐来館
29日 沖縄開発庁堀内専門官、他1名来館
29日 全国都道府県議会議長会事務総長藤田氏来館
2月3日 会計検査院審議官山田氏来館
5日 文化庁美術工芸課長鷺塚泰光氏来館
9日 沖縄開発庁振興総務課補佐平野氏来館
9日 参議院議員伊江朝雄氏来館
11日 沖縄開発庁元長官植木氏来館
11日 東北大学総長西澤潤一氏他6名来館
13日 熊本県議会文教治安常任委員、委員長島津勇典氏他9名来館
26日 科学技術庁科学技術政策局調査課課長補佐塩満典子氏来館
3月5日 中国第一歴史档案館副館長徐藝圃氏来館
6日 大蔵省大臣官房地方課長大田氏来館
9日 沖縄開発庁振興局振興総務課補佐江田昭夫氏来館
9日 愛知芸術文化センター総務部長来館
10日 東京世田谷美術館副館長小野正志氏来館
13日 米国海兵隊太平洋司令官他8名来館
16日 文部省社会教育課補佐松本五朗他1名来館
18日 文部省文教施設部技術課舌津補佐来館
25日 (財) 大阪神戸市スポーツ教育公社専務理事谷明氏他2名来館

XI 関係法規抄録

○博物館法（昭和26・12・1）
（法律第285号）

〔最近改正〕 平成3・4・2 法律第25号

第1章 総則

（この法律の目的）

第1条 この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、美術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治29年法律第89号）第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。
（博物館の事業）

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

- 1 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
- 3 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
- 4 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 5 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
- 6 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作製し、及び頒布すること。
- 7 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- 8 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する第一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
- 9 他の博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
- 10 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学校又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに当っては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

（館長、学芸員その他の職員）

第4条 博物館に、館長を置く。

2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。

- 3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。
- 4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
- 5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
- 6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- 1 学士の称号を有する者で、大学において文部省令で定める博物館に関する科目的単位を修得したもの
 - 2 大学に二年以上在学し、前号の博物館に関する科目的単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの
 - 3 文部大臣が、文部省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者
- 2 前項第2号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部大臣が指定するものを含むものとする。

(学芸員補の資格)

第6条 学校教育法（昭和22年法律第26号）第56条第1項の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

第7条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第9条 削除

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- 1 設置者の名称及び私立博物館にあっては設置者の住所
 - 2 名称
 - 3 所在地
- 2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。
- 1 公立博物館にあっては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
 - 2 私立博物館にあっては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があった場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しな

ければならない。

- 1 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- 2 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- 3 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- 4 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があったとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があったときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

- 2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に係る変更があったことを知ったときは、当該博物館に登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至ったものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならぬ。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至った場合においては、その要件を欠くに至った日から2年間はこの限りでない。

- 2 都道府県の教育委員会は、前項の規定による登録の取消をするに当っては、あらかじめ、当該博物館の設置者に対し、陳述する機会を与えるなければならない。
- 3 都道府県の教育委員会は、第1項の規定により登録の取消をしたときは、当該博物館の設置者に対し、すみやかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

- 2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

(報告の業務)

第17条 都道府県の教育委員会は、文部大臣に対し、その求めに応じて、当該教育委員会において登録した博物館に関し必要な事項について報告しなければならない。

第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

- 2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物

館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

2 博物館協議会の委員については、社会教育法第15条第3項及び第4項の規定を準用する。

(入館料等)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の1に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

- 1 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があったとき。
- 2 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。
- 3 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- 4 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雜則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国が設置する施設にあっては文部大臣が、他の施設にあたっては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

附 則

(施行期日)

1 この法律は、公布の日から起算して3箇月を経過した日から施行する。

(経過規定)

2 第6条に規定する者には、旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）、旧高等学校令又は旧青年学校令（昭和14年勅令第254号）の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部省令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○博物館法施行令 (昭和27年3月20日)
(政令第47号)

最近改正 昭和34年4月30日政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法(以下「法」という。)第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社
- 2 日本放送協会

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費
- 2 設備費 博物館に備え付ける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

附 則

この政令は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関設置条例 (昭和47年5月15日)
(条例第24号) (抄)

最終改正 昭和63年3月31日条例第17号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条、図書館法(昭和25年法律第118号)第10号及び博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

氏名	位置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

- 2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。
- 3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則（昭和47年5月15日）（抄）
（教育委員会規則第2号）

最終改正 平成元年6月30日教育委員会規則第7号

（趣旨）

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

（博物館）

第4条 沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）に次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

(1) 予算、決算その他会計事務に関する事。

(2) 公印の管守に関する事。

(3) 施設設備の管理に関する事。

(4) 職員の服務及び福利厚生に関する事。

(5) 博物館協議会に関する事。

(6) 他課の所掌に属さない事務に関する事。

学芸課

(1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関する事。

(2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関する事。

(3) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関する事。

(4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関する事。

教育普及課

(1) 博物館資料の利用相談に関する事。

(2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関する事。

(3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関する事。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年5月15日）
（教育委員会規則第13号）

最終改正 平成5年2月16日教育委員会規則第1号

（趣旨）

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（管理の責任）

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

（諸帳簿）

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならぬ。
（施設設備の亡失）

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

（警備防災の計画）

- 第5条** 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。
- 2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。
- (当直)
- 第6条** 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。
- 2 前項に定めるものほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。
- (職員の服務等)
- 第7条** 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。
- (文書)
- 第8条** 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。
- (開館時間)
- 第9条** 博物館の開始時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。
- (休館日)
- 第10条** 博物館の休館日は、次のとおりとする。
- (1) 定期休館日 月曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）の規定する日（子どもの日及び文化の日を除く。）
 - (3) 慰霊の日 6月23日
 - (4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで
 - (5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで
 - (6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日
- 2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これを替えるものとする。
- (寄贈及び寄託)
- 第11条** 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申込書を（第2号様式）を提出しなければならない。
- 2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。
- 3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。
- (寄託資料の保管)
- 第12条** 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。
- (寄託資料の返付)
- 第13条** 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。
- (経費の負担)
- 第14条** 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。
- 第15条** 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。
- (入館券の交付)
- 第16条** 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。
- (入館料の免除)
- 第16条の2** 沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）第4条の規程により入館料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

- (1) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として常設展を観覧する場合
 - (2) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒が学校週5日制の休業土曜日に常設展を観覧する場合
 - (3) 前各号に定めるものほか、館長が特に必要と認めた場合
- 2 前項第1号又は第3号の規定により入館料の免除を受けようとする者は、あらかじめ入館料免除申請書(第4号様式)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。
- (入館の禁止等)

第17条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認める者
 - (2) めいてい、疾病等により他人に迷惑をかけるおそれがある者
 - (3) その他館長が適当でないと認める者
- (施設使用の許可等)

第18条 博物館施設(講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。)を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書(第5号様式)を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならぬ。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附則(平成元年3月31日教育委員会規則第4号)

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

附則(平成4年8月28日教育委員会規則第7号)

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附則(平成5年2月16日教育委員会規則第1号)

この規則は、平成5年2月16日から施行する。

博物館資料寄贈申込書	平成 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿	申込者
	住 所
	氏 名
1 種 別	記
2 作者名	
3 作品名	
4 製作年月日	
5 附属品	
6 資料の所在地	
7 時価見積額	
8 寄贈の理由	

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。

記

博物館資料寄託申込書	平成 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿	申込者
	住 所
	氏 名
1 種 別	記
2 作者名	
3 作品名	
4 製作年月日	
5 附属品	
6 資料の所在地	
7 寄託期間	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで
8 寄贈の理由	

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申請します。

受 諸 詔 書	4 製作年月日
上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料について ては、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員 会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。	5 附属品
	6 資料の所在地
	7 寄託期間
平成 年 月 日	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで

沖縄県立博物館長

印

第3号様式（第11条関係）

第4号様式（第16条の2関係）

博物館資料寄託承認書	
平成 年 月 日	殿
沖縄県立博物館長	
平成 年 月 日	記
平成 年 月 日付け申請のあつた博物館の寄託については、下記により受託します。	
1 種別	
2 作者名	
3 作品名	
4 製作年月日	
5 附属品	
6 受託期間	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで
7 備考	

入館料免除申請書	
沖縄県立博物館長 殿	平成 年 月 日
申請者住所	
申 請 者 住 所	
氏 名	
電 話	
下記の理由により博物館入館料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第37号）第16条の第2項に基づき申請します。	
記	
1 入館者 団体名	
引率者名	
2 入館者数 人	
3 入館日時 年 月 日 (曜日)	時～ 時
4 申請理由	
記	
承認証	
殿	
年 月 日 付け申請の博物館の入館料免除の件、申請どおり承認します。	
年 月 日	沖縄県立博物館長

館長	副館長	庶務課長	教育普及課長	担当

第5号様式（第18条関係）

博物館施設使用許可申請書				
平成 年 月 日				
沖縄県立博物館長 殿				
申請者氏名 _____ 印				
電 話 _____				
<p>下記により貴館施設を使用したいので許可してくださるようお願いします。</p> <p style="text-align: center;">記</p>				
1 使用者				
<u>団体名</u> 及び <u>代表者名</u> (印) <u>職業()</u> <u>住所</u> <u>電話</u>				
2 使用目的				
3 使用する施設： 1 ホール 2 臨時陳列室				
4 使用する日時及び期間				
自：平成 年 月 日 午 時 分 () 至：平成 年 月 日 午 時 分 日間				
5 予定参加人員 人				
6 その他必要な資料（プログラム等）				

許 可 書				
月 日付申請の() 使用の件、申請どおり許可します。				
平成 年 月 日				
沖縄県立博物館長 (印)				

○沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年10月2日） （教育委員会規則第29号）

（趣旨）

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

（委員）

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

（任期）

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（会員及び副会長）

第5条 協議会に会員及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

（会議）

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会員の決するところによる。

（費用弁償）

第7条 委員は、その職務を行うために必要とする費用の弁償を受けることができる。

（庶務）

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

（雑則）

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年5月15日） （条例 第37号）

最終改正 平成元年3月31日条例第22号

（趣旨）

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規程に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

（使用料の徴収）

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を越えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

（使用料の納期）

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料金の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

別表第1 (博物館の入館料)

(第2条関係)

使 用 者	入 館 料
一般	200円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体(20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

別表第2 (体育施設の使用料) (第2条関係) -省略

沖縄県立博物館年報 No.26

1993年7月27日 発行

編集・発行 沖縄県立博物館
住 所 〒903 那覇市首里大中町1-1
TEL :098-884-2243
FAX :098-886-4353

印 刷 (株) 南 西 印 刷
住 所 〒903 那覇市首里石嶺町1-127
TEL :098-884-4321
FAX :098-884-4389

1993年度 沖縄県立博物館年間行事一覧

○特別展

沖縄の川と生きもの 1993年8月3日(火)～9月5日(日)

○企画展

新収蔵品展 5月11日(火)～5月30日(日)

芭蕉布と平良敏子 7月6日(火)～7月25日(日)

刻まれた歴史－沖縄の石碑と拓本 10月5日(火)～10月24日(日)

○第17回移動博物館－伊良部町 11月20日(土)～11月21日(日)

○博物館文化講座

第224回 島袋 洋「土器の話」 1993年4月17日(土)

第225回 前田 真之「米国の博物館活動」 5月15日(土)

第226回 里井 洋一、片岡 淳「ウッチンの話」 6月19日(土)

第227回 平良 敏子「芭蕉布とともに」 7月17日(土)

第228回 水野 信彦「生きものにやさしい川づくり」 8月21日(土)

第229回 久貝 勝盛「サシバの話」 9月18日(土)

第230回 崎間 麗進、阿波根直孝「拓本教室」 10月16日(土)

当間 博「拓本のひょうぐ方法」 10月23日(土)

第231回 神山 泰治「琉球王朝絵画と中国絵画」 11月20日(土)

第232回 嵩原 建二「野鳥に親しむ」 12月18日(土)

第233回 當眞 嗣一「寄りものの話」 1994年1月22日(土)

第234回 西村 治良「ホームビデオ製作」 2月19日(土)

第235回 萩尾 俊章「歴史の道を歩く」 3月19日(土)

○夏休み「歩く・見る・作る」教室

(1)スケッチ会 1993年8月15日(日)

(2)自然觀察 8月22日(日)

(3)石器をつくる 8月29日(日)

○子ども体験学習教室

(1)野鳥は友だち 5月8日(土)、8月12日(土)

(2)オリジナルの「印」をつくろう 7月10日(土)、8月14日(土)、9月11日(土)

(3)あそびの道具づくり 10月9日(土)、11月13日(土)、12月11日

(4)史跡をたずねて 1994年1月8日(土)、2月12日(土)、3月12日